



谷津干潟愛護研の提唱で行われた初の清掃作戦



初のクリーン作戦

主婦や子供30人汗だく

(読売)

小島の、楽園、谷津干潟(習志野市)の環境を守ろうと、谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長)の提唱で、干潟の近所に住む主婦や子供たち三十人が二十三日、同市谷津三丁目の同干潟で初のクリーン・アップ作戦を行った。清掃した場所は、小島の観音所とは反対の西側にある谷津ソフトタウンの裏側で、コンクリートの破片が山積みになっていたり、か、鉄クズ、家庭の廃品などが捨てられて、まさにゴミ捨て場。

小さなゴミはゴミ用紙袋に詰められ、部分的にはゴミが取り除かれたものの、粗大ゴミはそのまま残され、森田会長は「粗大ゴミについては、県や市に運搬を呼びかけていく。同干潟は、東京湾の干潟のうちでも、鳥類が一番多く生息、シギやチドリなどを約二十種、九千羽いるという。」



東京湾に残された数少ない野鳥の楽園を守ろうと、習志野市谷津の谷津干潟第一回クリーン作戦が二十三日午後一時から行われた。約三十人が参加したが、あまりのゴミの多さにびっくり。今後定期的なクリーン作戦を続けることになった。同干潟は年々埋め立てられて、現在は五十センチ深くなった。このうち、三十三センチが国の鳥獣保護区に指定され、二十五センチ程度、五、六千羽の野鳥が生息している。しかし、都市化とともに、ゴミや産業廃棄物などの不法投棄が目立ち、まるでゴミ捨て場のよう。谷津干潟を保護しようとして行われたクリーン作戦(船橋市宮本八ノ六ノ一〇、全日等遊会、中村隆次さん等)。

用意した袋すぐ満杯

守る会の
会員や住民
ドロまみれ奉仕

同干潟を保護しようと、三年前、市川市北方の森田三郎さん(愛)を会長に六人が「谷津干潟愛護研究会」を組織し、同干潟の崩壊や崩壊小屋、テール、ベンチなどを設置、野鳥愛護家の視察に役立てる一方、関係官庁に、谷津干潟の環境美化と保護を訴え続けてきた。しかし、官庁側が重い腰を上げないため、同研究会で、日本野鳥の会千葉県支部(代表・石川敏雄千葉大教授)、千葉の干潟を守る会(大浜清代表)、干潟の保

存を強く望んでいる地産住民が、もっとも汚れている谷津三丁目ゴミの清掃隊を行い、理解の足りない官庁のしりぞきをたくこらした。

この日、参加した住民たちは、コンクリートの破片の山、鉄骨、古タイヤ、ビールびん、毛布、茶たんなど、ゴミを見て「うっしょ」といひながら、ドロにまみれ、捨てるゴミだけを拾った。それでも同研究会が用意した八十のゴミ袋があっという間に一杯になった。森田会長は「今後は『谷津干潟環境美化委員会』をつくり、定期的にクリーン作戦を続ける」と話していた。

お知らせ
毎月オミ火・日曜日は「谷津干潟クリーン作戦」の日
10.30 ~ 12.00
参加資格は問いません。
連絡 0473-3381 6668

作戦 A・B

A作戦
主婦の人
オミ火曜

B作戦
一般人
オミ日曜

この本をすすめます
「奥駢医学序説」著
クロード・ベルナル 著
三浦 栄 訳
岩波文庫 NO-961

ふかんど

谷津千鴻愛護研究会

市川市本北方二一三五〇六

〇四七三二一三八一六六六八

発行者 木村田三郎

印刷 ウエダ



分い言のサジアコ

— その生い立ちと追憶 —

1975年コアジサシ・シロドリ・コ
チドリ繁殖調査より

森田三郎



多くの故郷埋立地
いつのことやら忘れたが
夕立去ってすがすがしい
貝殻山に虹が立つ
近くの水辺でシギチドリ
餌を漁って水遊び

そんな或日の昼下がりに
照りつく日ざしさんさんと
人道雲のその下に
母さんコアジ飛んで来て
かげろうゆらめく砂の上
卵のぼくを生みました

すりばち型の巣の中は
砂のふとんに貝まぐら
兄さん妹このぼくは
昼は太陽夜は母さん
日暮の空に天の河
鳥のさえずりかまびすしい
街の明かりがチラチラと
奇せる波間にうつります

思いたたずみ母さんが
つぶやくように言うのには
「七尺下のこのあたり
わたしの仲間がすんでいた
うみほうずきにシャコヤカニ
いそぎんちゃくにニシホッコ
はまぐりアサリ幾億万
生きたままにて葬らる」
そこまで話した母さんの
目には涙が光っていた

夢うつつのぼくたちは
まんじりともせず聞いたっけ

或る日悪い人が来て
めずらしそうに菓をいじり
卵の兄さん持った
気を狂わんばかりに母さんが
叫びわめいて急旋回
返して、返して、兄さんを！
ぼくらが一体何をしたら
それでも空しくその人は
向こうで人に見せていた
後に残ったぼくたちは
心で別れをつげたっけ

それから三日後ヒナになり
おいしい小魚たべました
ヨチヨチ歩きのぼくたちは
人影見ればじっとして
保護色使って身を隠す

もうじき飛べるそんな時
突然ブルの音がして
ぼくと母さん逃げたけど
おうちと妹粉みじん
悲しむ間もなく次々と
七百近くの仲間らが
同じ運命遇ったのさ
土くれツメ跡痛々しい
涙ながらに捜したさ

さかまく砂じんじんに流の雨
寒さ空腹なんのその
いろんな思い出あとして
ようやく大人になりました
「聞いて下さい世の人よ！
心に情けがあるのなら
かけて下さい憐みを！
追われ追われてぼくたちが
辿りついで埋立地
ここが最後のすみかです！」

胸一杯に潮風を
スーと吸ってはばたけば
飛んだぞコロニー足の下
貝殻山が光ってる

真夏の空に高々と
夕陽と雲を背にうけて
トンボ返りに気は踊る
頭をめぐらし巣を見やり
兄さん妹さようなら
思えば涙が出て来ましよう
ゆくぞ！波濤万里のその向こう
南十字を見ろという

遙か旅路はオーストラリア！
どうか日本のみなさんよ
来年ぼくらが来たときに
守って下さい！

「貝殻山」
残して下さい！
「小さな自然」
削って下さい！
「サンクチュアリー」

日本道路公団・前田建設 クリーン作戦協力の申し込み

機械力の投入と人手の約束 袋百五十余寄贈さる

才六回谷津千鴻クリーン作戦（六月十七日）の
日、前田建設の方が現場に見えられ、袋の寄贈と
右の申し出があったとの。又、クリーン作戦協力
のことは、去る六月十二日、道路公団・原工事長
から、遊歩道と合わせて、その話があった。

県・自然保護課へ不法投棄 現場の実情を説明

去る、五月二十一日、不法投棄されて
いるゴミのことで、過去と今の実情、変
りぐあいを説明して来ました。

（謝意）
県・企業庁へ
クリーン作戦の成巧は、企業庁の
ご協力、大なるものによるところ。

大蔵省、グリーン作戦に着手

京葉読賣

よごさないで 谷津干潟
千葉財務部が看板で呼びかけ



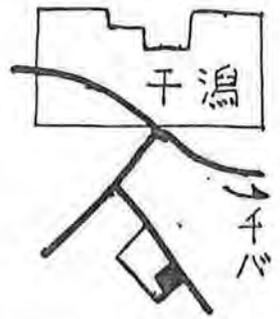
「よしたとえ、牛の歩みはのろくとき
行けば千里の果てき見ん」

**野鳥の楽園の
ゴミ追放作戦**
谷津干潟で千葉財務部
大蔵省関東財務局千葉財務部
は、八日から、野鳥の楽園・
谷津干潟（習志野市）のうち、同
市谷津干潟に接する約1.5ヘクタ
大ゴミの取除きを始めた。同干潟の
環境を守ろうと、谷津干潟環境研
究会・森田三郎会長（習志野市）の協働
で、先月二十三日、干潟の近所に
住む主婦や子どもたち三十人が同
所で初のグリーンアップ作戦を行
ったが、手に負えないコンクリー
ト破片など粗大ゴミが山積みにな
って残されていた。

1980.4.11

穀系殖地への立入り禁止

バードウォッチャー・野鳥の会々員
が、その主な対称。関係者の、猛省・自
覚・教導らに、大いに期待するのみ。



卸団地協同会館内
コーヒー・食事
トリのパネル

いんしぎ

谷津干潟の想い出②

へ月刊「ならしの」連載中

風車

絵と文 森田三郎



沼のほとりに立っていた。たし
か、六・七台あった。みんな南の
ほう、海に向かって立っていた。
谷津干潟のほうから、やわらか
い潮風が吹くと、それを受けて、
みんないっせいに「カラカラ」と
音を立てて回っていた。
風車は、沼から田んぼへ水を汲
むためのものであった。農家の人
が作った、無骨な、フシヤ木目が
古くなって、少しくたびれた風車
は、回るたびに「ギーギー」と
と鳴っていた。
私がかつとも鮮やかに憶えてい
るのは、ちょうど今ごろから、初
夏にかけてのありさまである。
新緑の田んぼが波打ち、風車の
すぐ下、こんもり茂るヨシやガマ
が、力強く育ってゆく。その水の
中の、茎の所には、オタマジャク
シやザリガニ、ヤゴなどが、じつ
として休んでいるか、モソモソ動
きまわるのが見えるのだ。沼の、
水の中には水草が、水面には浮き
草がたくさんあって、水の生き物
たちにとっては素晴らしい楽園だ

が、まわる風車が映っている。あ
ったかそうな沼の表面に鼻づらを
出し、手足をデレッとほしてポ
ツカリと、あちこちに浮んでいた。
「オオーイ、こっちはだあこつ
ちだあー、魚がえつぱいんどあー、
でいた。」

早く来いよあー」と、はだしん
坊の、泥だらけの子供たちの呼び
かわす声が、沼の水面に反射する
かのように聞こえた。
風車のまわりには、菜の花畑や
麦畑、野原や小川、アシ原や砂場
そして水車もあった。沼のわき、
風車のすぐうしろの、ウマゴヤシ
の原っぱに、ぼくたちは寝ころ
がった。白い雲がゆつくりと、漂い
流れ、青い空の中で、時々くっ
いたりしては、又はなれていった。
「ヒヒヒーン」といえない
て、馬が、風車と反対がわの沼の
土手道を歩いてゆく。ヒバリたち
もゆつくり旋回しながら、力強く
さえずり、だんだんと上へ、空へ
のぼっていった。
原っぱから、ソーツと風車の下
へはつて行き、そして、「パツ」と
身を動かす。すると、今までそこ
いらでのんびりとしていた、沼の
生き物たちが、「サーツ」と水中
にその姿をかくしてしまふのであ
った。浮いた木の上で昼寝をして
いたカメも、バタバタ手足を動か
して水に入ってしまった。カエル
も三匹ぐらい、水音をたてて飛び
込んだ。
そんな中で、風車は、初夏の、
潮の香と水の匂い、草の匂いを、運
んで来る風を受けて、「ギーート
ン・ジャー、ギーートン・ジャー」
と、緑の波打つ田んぼへ水を汲ん
でいた。

「谷津干潟環境 美化委員会」

このたび設置されまし
た。運動せず。目的は読
んで字の如し。

この本をすすめる

- 「人体の叢知」 ウォルター・キャノン
- 「森のロルフ」
- 「二人の小さな野蛮人」 アーネスト・T・シートン

ふかんどー谷津干潟の古い呼び名

ふかんどー

— 3 —

谷津干潟愛護研究会

市川市本北方2-35-16

0473-33816668

印章
印文

ウエダ
(34)5684

このイラストは、どうして生まれたか

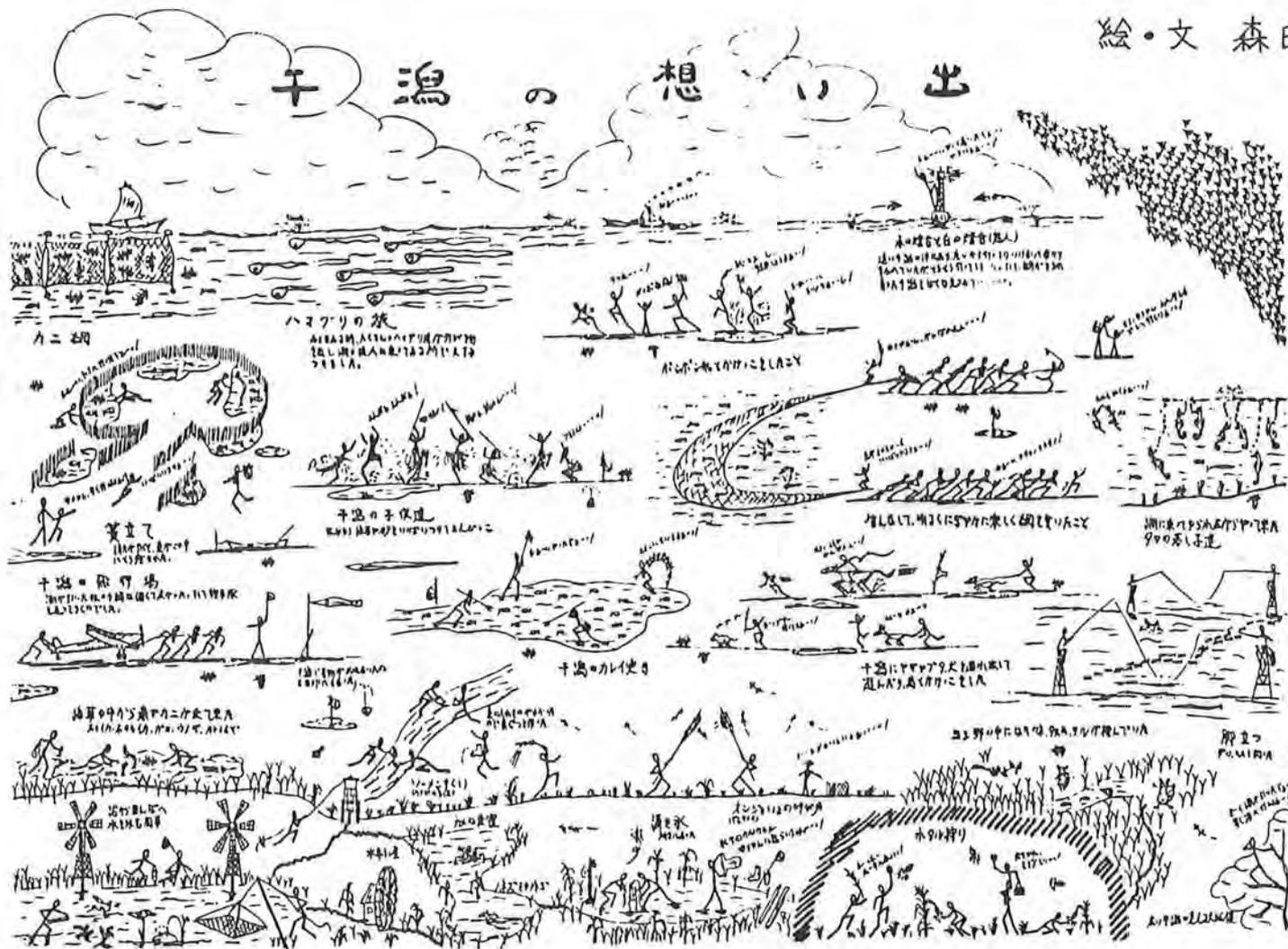
へ毎日グラフへ

— 今は七き、赤銅色の子供たちに

代りて、この絵をささぐ —



絵・文 森田三郎



我が胸に

のぼる入道雄渾の

燃え湧き上がらん泉あり

「あの赤銅色の子供たちはどこへ行った？ 湖の匂いを忘れたか？ 広くて豊かな、青みどり色の海はどこへ行ってしまったのか？」 東京湾には、もうふたたび、赤銅色の子供たちが躍動する姿は見られないのか。

子供たちに必要なのは、干潟である。決して干潟の定義や解説や理論ではない。位置づけや、その考え方もない。なぜなら、子供たちにとって、前者は在るもの。後者は、大人が大人の頭で作り、教えるものだから。前者は、キャッシュ、金そのもの。後者はそれを担保とした手形であり、小切手であり、紙幣である。かつて干潟と子供たち—この間に立ち入るものは何もなかった。いま、子供たちから、その紙幣を出された時、わたしたち大人は、何ほどのものを出せるだろうか。

誰なれば

黙しておるやと戸をたたく

地下に埋もれし干潟のなかが

幾千のシギ、チドリが、せまい谷津干潟の上を飛び舞う。夕陽をうけて、紙吹雪のようだ。ここには、往時の面影はない。追われ追われて彼らは、このせまい所に押し込められたのだ。その有様は、干潟の想いの呼び水である。その時ほど、彼らを守ろう、谷津干潟を残そうと、強く、深く思ったことはない。私は子供のころの、干潟の想い出の中で日なたぼっこをする人間ではない。「谷津干潟のために、何かが出来ないかよりも、何が出来るかを考えてきた。どうして出来ないかよりも、どのようにしたら出来るかが大事だった。出来ないことを教え立てるより、出来ることをさがしてきた」この絵は、そんな中から生まれた。生きながら埋められた、幾億万の干潟の仲間と、少年のものがたりです。

「谷津干潟 観察会」の公開

8月31日

今まで、個人的に、少し、呼びかけることになりました。人数の方々の間で行なわれて来ました。二十四回。今度、社会一般に公開し、小屋づくり。

谷津干潟環境美化委員会は家庭の主婦のためにあります。

発行者 森田三郎

あ。の。ブ。ン。キ。は。今。。



みどりの草原の中に、まっ白いテーブルとベンチ。主婦と子供たちが参加しました。皆んな、ペンキだらけになって、いっしょけんめいに！

↑朝日

森繁久彌さん | 4月30日(日) | ヨミウリ
の手紙

ペンキ塗りいかが？
習志野 谷津十湯環境美化
三郎さん(三郎)の手で谷津十湯の
ペンキ塗りイベントのペンキ塗りが
行われている写真①。百三十
余もあるこれらペンキ塗りは、十湯
の番人といわれている森田さん
が十湯へ流れ込む腐材や流木を集
めては、一人で作ったものだが、
潮風で塗料が落ちた。この呼びか
けに地元の主婦や小学生など二十
数人が参加、連休中に行っている。
ペンキ塗りだけで三万九千円かか
るが、これを知った森繁久彌さん
から、このほど二万円が寄
せられ森田さんを支えています。
ペンキ塗りを塗りたい人はど
うぞ、と飛び入り参加を求めています。



よく頑張りましたね。
私の心は
涙と涙で溢れ
ぬ心、おほいおほい
理解ねんと思いまう
筆をなうかばと、
森繁久彌

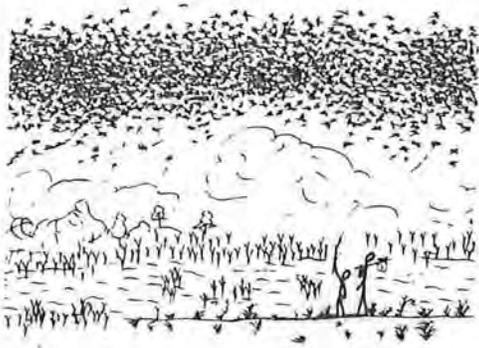
干湯の子供たち

ギンヤンマの大編隊

「月刊
ならしの」

それは、何万、何十万匹とも知れない、ギンヤンマの大群だった。広い干湯を見晴らせる土手道の、すぐそばにある沼の上空だった。群のあちこちで二ガシヤガシヤと、ギンヤンマがブツブツかき合っている。羽のこすれ合う音がしていた。そして、いたる所で、群から飛び出たり、また入ったりしていた。離れて見ると、ちょうど、うす茶色の雲かモヤが、沼の上に浮んでいるようにあった。

「マーちゃんよ、ほらあほらあ、見てみいん、あれえみんなオンジだねえー、なんてえあんなええへえいんのあ？」
「ううーん、そうだあさぶう、せえーんぶオンジだあ、だけどあ、オレも知んねえなあ、でもおてもなあさぶう、ときどきオンジはよお、ああやつてえ、ええべえ来んだとあー」海からの帰りに、ぼくは、ガキ大将のマーちゃんと見ていた。二人の肌は赤銅色。その背中にあたる潮風に、沼のワママヨシが波打っていた。当時、こういう光景は、谷津干



湯の近くに限らなかつた。山のほうの、谷あいの草むら、野原や田んぼなどにも出現した。そして、ぼくが見た、もっとも大きなものは、今ここに書いてある谷津干湯。その背後地のものであった。真夏の空にさつそうと、互いに飛び交い、群舞する、ギンヤンマの大編隊。少年の頃、陽の光をあびてはばたく、その勇姿は、私のあこがれのマトだった。ギンヤンマこそ「夏の王者」だった。ぼくだけではない、その頃の子供たちにとつて一チャンピオンだった。そんな、ギンヤンマのすさまじい大群が、自分たちの遊ぶ所にいることは、子供のぼくにとつて、ある自尊心と誇りを抱かせた。群の下は、陽の光にさえざられ、カゲってウス暗くなっていた。網では全くダメ、石を投げても届かない高い所だった。石が落ちる時、二、三匹が石に連られて群から飛び出し、また群へ潜っていった。

「すげええええ、さぶう、オンジよはよお、ここおみんな来んだかんなあー、ええつべだよなあ」
「マーちゃんよお、すげえええべだもんなあ、うれしくなあちやあもんなあー！」
マーちゃんは、オンジヨトリの名人だった。私の「先生」だった。ギンヤンマのことは、みんな教えてくれた。オンジヨトリの作りかた、使いかた。どんな天気の日にいっぱい飛んで来るか。朝、昼、晩はどこにいて、どうしているか。水、草、土の上では、その見つけかたもとりかたも違うこと。おびき寄せかた、呼び声、そしてオンジヨトリにも「格」があることなど……。
すべてはマーちゃんに、仕えて全身を使っておぼえたのである。やがてぼくも大きくなったとき、自分と連れ、ギンヤンマに明けられた。かつて、あのマーちゃんがやったように……。

感謝

自然保護のことは、まにまに知らず、お父さんと子供たち。本当にありがとうございました。ありがとうございます。

ーベンチの作り主ー

BOOK

人間—この未知なるもの
アレクシス・カレル
Wolf Child and Human Child
シング 牧師

「ふかんど」... 谷津干潟の昔の名前。

ふかんど

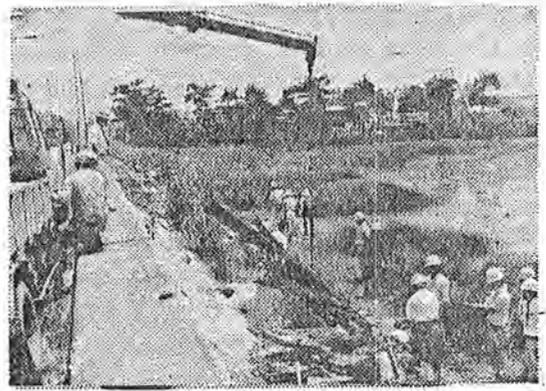
一オ4号一

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二ノ三五ノ六
電話 0476-1-1666八
発行・責任者 森田三郎

会ヒ 2000円

ウエダ (34)5684

(谷津干潟クリーン作戦) 重機類を投入す 前田建設と竹中土木が協力 そのおかげで、クリーン作戦は大幅アップ



「ウチの子とかが、カニを取りに来るの」と、ある母親。5・15(荒巻)

クリーン谷津干潟
習志野 谷津干潟環境美化委員会(森田三郎代表)の第七回谷津干潟クリーン作戦が15日、谷津干潟の干潟北岸で展開された。地元の主婦五人のほか、東関東自動車道の秋津工区を担当する前田建設・竹中土木共同企業体の十六人が特別参加、クレーンを装備したユニック車やトラックを出動させ、機動力で、腐材を取り除くなど、大掃除が写真上。

広がるクリーン作戦の輪

今回の、前田建設と竹中土木の誠意ある協力により、県企業庁・大蔵省・千葉財務部の、三者が参入するようになりました。又、近くにお住まりの主婦が三人、新しくご協力していただきました。

野鳥の楽園を守れ

森田さんの 谷津干潟で孤軍奮闘



開発の波から野鳥の楽園、を守ろうと張り切る森田さん(右)谷津干潟で

干潟の野鳥にみる谷津干潟の環境汚染と隣り合わせ。東京湾岸に残された最後の、広さは三、五十三、野鳥の楽園である。同市谷津干潟は広大な埋め立て地に

変わってしまったが、こたげは大きな池のように成り残されている。空をひん、ヒノル類、腐材、それに周辺からの生活排水などが流れ込んでお世辞にも快適な生活条件とはいえない。それでも、太い首を通じて東海とつながっており、潮水も流れ干潮、満潮もある。野鳥たちのエサとなるゴカイやカニ、小サカナも豊富だ。

「野鳥の楽園を何とか開発の波から守ろうと、ただ一人で黙々と周囲や埋め立て地に汗を流している四年が経つ。谷津干潟に近い船橋市本町で生まれ育った前田三郎(三郎さん)だ。いまは仕事の関係で市川市本北方に住んでおり、朝、夕刊の配達の間を見ながら、は自宅の手前を往復する毎日を送っている。

「昨年六月のころから、谷津干潟の先の埋め立て地に野鳥の楽園がタカシギが営巣しているのを知りました。セイヤカシギの営巣地は本川河口の鶴田干潟地(愛知県海部郡弥富町)だけしか知られていませんでしたから、早速行きました。はうれしく、うれしくて...」

「埋め立て地はアルミサヤや工事の人の出入りなどを激しく安心して営巣出来ません。人間に邪魔されない、広い生息地や淡水池がほしいです。」



こうした活動のあひだをみて子供たちを対象にした「谷津干潟の野鳥の楽園」を出版して、今月五日のスタート以来、回数は増えており「子供たちに野鳥の楽園はあんな埋め立て前の海だった話や、広い野鳥を使った遊びを教えたいですね」と張り切っている。

今は多軍奮闘!

クリーン作戦 以前の頃!

見れば、圧倒する山なすゴミも、皆、一ツツ落ちていく。だから、全部のことを思えば、私は負けて

その勇気がなえてしまう。でも、一ツツ、又

一ツツ、ゴミまで

暗く、ガツカリして

いて、今日だけ

は、私は必ず勝つ。

自然保護の... そんなの考えた事ないよ、いつでもあげよう。

「干潟は生きてるとな?」、他なし、人体のソレなり。我々が汚れても毎日入浴する。ならば干潟も、何かことならんや!

谷津干潟観察会

八月は毎週 - 3・10・17・24・31日

▼ 集合場所

干潟のテーブルとベンチ

▼ 時間

午前11時～午後1時

・いつ来て、いつ帰ってよ。

▼ 用意するもの

各人の好きなもの……

▼ すること

- 土人小屋の修理・ペンギン塗り・そうじ・焼いそ・カニとり・魚とり・調査・……出来る事全部です。

「企業庁・京葉建設事務所に説明と要望」

「危険な船・取線」

干潟に接する

現在、歩行者は、金アミの支柱を伝って行かねばならぬ。安全のため、簡易歩道を提案した。(ただし、道路計画とは切り離す)。それに対して石事務所は、種々の理由により、「保留」との事。

県立船橋高校・生物クラブが調査



谷津干潟内では、国鉄京葉線の工事が進む。関係自然保護団体の、社会的責任を疑う声か、ずい所できかさました。(森田三郎)

「夏休みテーマ」谷津干潟の力を調査する。山本部長以下、八人の生徒。あわせて、埋め立て地の生物調査。愛護研究会と協力。みんなガンバレ……

ふかんど物語 1-4

体操ガニ

「イチニツ、イチニツ」干潟には、小さなかわいらしいハサミを上下に振っているカニの群れがいた。

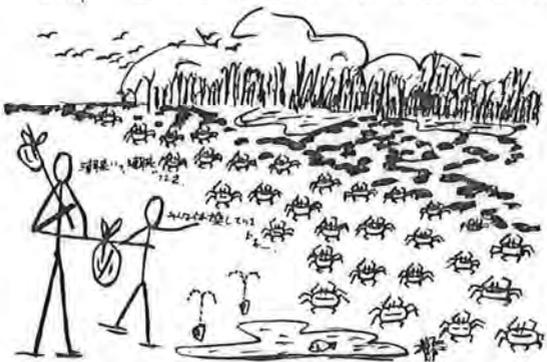
ほくたちは、体操ガニと呼んでいた。その数は何十何百万とも知れず、干潟の表面がモソモソ動いているようだった。シーと見つけたら背中がソクソクしてきた。足元からカニがモソモソはいあがってくるような気がした。シーと耳を澄ましてみると、「聞こえてくるんだ」耳元をかすめる潮風の、かすかなシュー、シューという音に混って、ジワジワ、ジワジワと、小さな重みのある音が。そこいらじゅうから、湧きあがるように聞こえてきた。

砂地にふり降るハサミの音が、おしゃべりしている声のように聞こえる。

ほくは、体操ガニがどうして体操するのか知れたかった。ある日のことカニ大将のマーちゃんが、体操ガニがどうして体操するのか教えてくれた。

「ほらあ、さふう見てみん、皆ん

「月刊・ならしの」より
絵と文 森田 三郎



な体操してんべえ。どうして体操するの知ってんかあ？」
「ううーん、なんでなのよ。」

「あれはなあ、こうやって体操するんば、潮来んと思つてんだとお。ほら、じつとして見ん、潮来んのがわかるから」

No. 111 の本 「……」 筆者が自信をきいてるものばかりである。

クリーン作戦の御礼に行く

同会と環境美化員会は、前田建設・竹中土木・企業庁へ、感謝の意を表す為、七月二十三日訪問した。

この本をすすめる

- 「心理学の新世界」 (The New World of the Mind) J・B・ライン
- 「アウエロンの野生児」 ガスパール・イタール

バードウォッチャー(野鳥の会々員)から、野鳥の生長と安全・自然を大事にする精神を守ろう!

ズ (東タイ)

昭和55年(1980年)5月4日(日曜日)

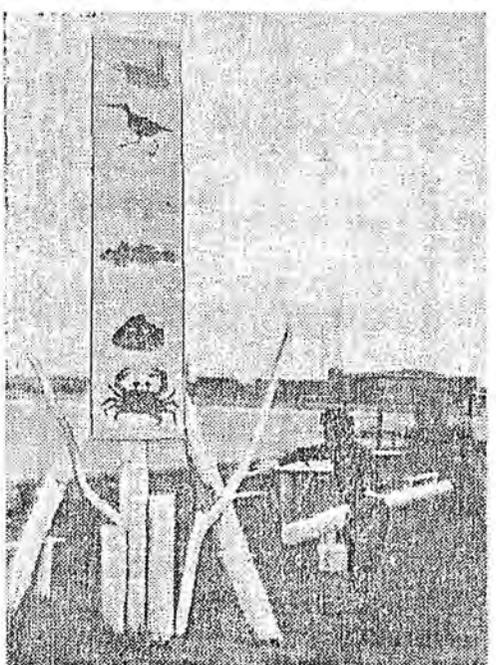
[2]

野鳥の楽園を守ろう

谷津干潟クリーン作戦

東海に死なされた野鳥の楽園を守ろう。と千葉県習志野市にある谷津干潟で、不法投棄されたゴミを二回するクリーン作戦が自然保護グループの手で続けられている。約五十名ある同干潟のうち、三十三名が国の鳥獣保護区に指定されており、シギやチドリ、サギ、カモなど三十三羽、九千羽もの野鳥たちが生息する楽園とされている。都市化とともにゴミや産業廃棄物などの不法投棄が目立つようになったため、ゴミの一種に乗り出した。毎月の第三次火曜の午前中、地元の主婦らの協力を得て、ゴミの回収が行われている。クリーン作戦を進めているのは谷津干潟環境研究会(森田三郎代表)である。その中心となっている森田さんは、年々埋め立てが進み、狭められて行く谷津干潟を守ろうと、三年前に同研究会をつくり、関係団体などに干潟の環境美化と保護を訴えている。

特に、同市谷津干潟の住居地付近の干潟はコンクリート壁や鉄スズ、家庭からの腐敗な



谷津干潟で案内板のペンキ塗りを進める森田さん

どが山のように捨てられ、まきうしてこんな物まで干潟に捨てなればならないのだ。谷津干潟は千葉県に残された数少ない野鳥の楽園。ゴミの不法投棄は追いかけつづける。このクリーン作戦、なかなか重たい腰を上げない行政側のしりをたたく。クリーン作戦と同時に、森田さんは野鳥愛好家の観察に役立てようと、つくった観察小屋やベンチ、テーブルなどのペンキ塗りも進めている。干潟のま

東京タイムズ

わりに設置されているテーブルは二十四、ベンチは百十。材料は千葉県と福水路をつたって干潟に流れ込んだ流木。

こうした森田さんの活躍に先月下旬、「よくがんばりましたね。無心の子どもたちが一番の理解者だと思えます」と、俳優森久弥さんから激励文と二万円のカンパが送られてきて、これからはがんばらなくては。ベンチやテーブルにペンキを塗りつづけないとね」と森田さん。「子供の日の五日、谷津干潟で野鳥観察会を予定している。参加自由。習志野地・バス

終点か、袖ヶ浦団地・管理事務所前に午前十時集合。詳しくは0473-38-6668。

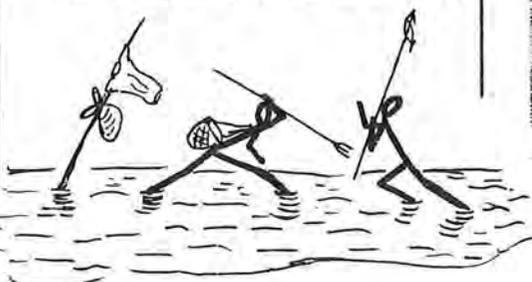
好評でした 谷津干潟パネル展

三井銀行・津田沼支店

展示内容

- 谷津干潟自然教育園
- 干潟の思い出
- 谷津干潟の渡り鳥

パネルの提供や色ぬり、環境美化委員会の皆さんにお礼を言います。



自然を大切に

『谷津干潟自然教室』開催中 8/4 9

二協力

谷津干潟環境美化委員会 代表森田三郎様
谷津干潟愛護研究会

この本をすすめる

「聖書」 一言うまでと女、く、バイフル。

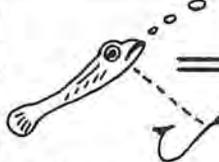
特に、ヨハネ・ロマ・コリント・ヤコブ・ヘブル書

「実業の帝国」

アンドリュウ・カーネギー

目前、ベンチの有る所。コアジサシの、魚を取る姿が、干潟の西側で、常に多く見られた。ハゼ釣り、が、西側のトンネルで、出来るようになったこと。

水路開通後



盛んなハゼ釣り

「見える。魚の大群」
「聞える。魚の大群」
干潟は今、どこも魚だらけだ。バシャバシャ、ドボドボ、そんな、魚の大群が氷ぐ水音が、そこいら中で聞えるのだ。そして、その姿が見えるのだ。ハゼ釣りの人々といっぱい。一りで、ゴミが心配だなあー。

干潟の清掃活動は、近くの主婦が殆んどである。

ベンチ・テーブル・あずま屋の、修理・ペンキ塗り・保ゼン、一般市民のカンパで支えられている

(お金は東京4-41670)

谷津干潟ワリーン作戦 毎月3日・火曜日 10.30~12.00

1980年9月5日 毎月1回5日発行 定価100円

ふかんど

— 6号 —

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二ノ三五六
電話 0473-1666八
責任者 森田三郎

年会ヒ 1000

印章 **ウエダ**
0473 (34) 5684 (R)

ふかんどー古い谷津干潟の名前。深い所があったので、その名がついた。

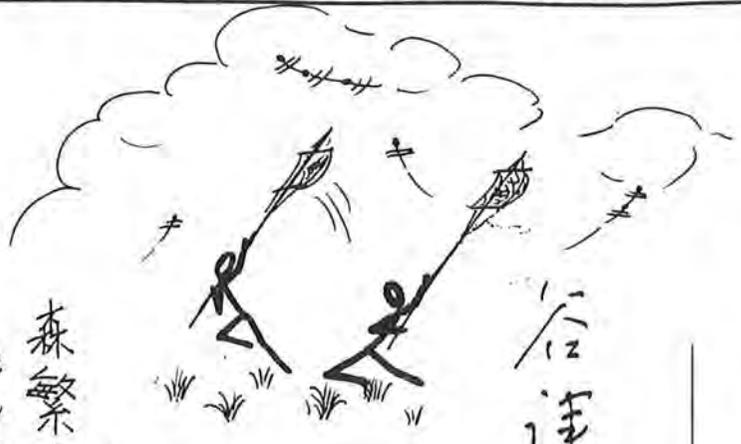
秋のふかんど

後編

ふかんど

ふかんど

ふかんど



谷津干潟環境美化委員会

ふかんど

ふかんど

森繁さん、私達もそれに
志をさせていただきます

我にならん

負つて来たリー「ふかんど」の

痛みと重荷を思ひ方は、

彼我が境も無かるべし

三郎

谷津干潟環境美化委員会

京成電鉄の工事
現場にある、野
鳥ポスト・テーブ
ル・ベンチ・看
板が、何者かによっ
て、掘った跡が発
見されました

場所は、県立・津
田沼高校のそば。23
日、森田が見まわっ
てわかった。ごく最
近掘ったもので、や
わらかくフカフカし
ており、抜けやすく
してあった。京成が、
キャンプ搬入のため、
橋をかけるのに、ポ
ストなどを撤去した
したいと、当会に希
望していた矢先の事。

千葉県・企業方との了解による、テーブルとベンチ。ソレが“いきなり無くなる”という、不幸な事がないのを念じております。

コケヨ コレ-50 (64X44)

ふかんど

へふかんど〜幼稚園少の頃、私をはぐくんでくれた谷津干潟の名前

父母に謝す

はぐくみ育てしふかんどを

つくばくたりとてすくゆんと

努力の能力^{ちから}をえしを

—オ7号—

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五ノ六
電話 0476-166166
発行責任 森田三郎

年会費 2000

印章ウエダ
文具 (34)5684

をらしめよ

我を、用木たらしめよ

動き思ひて在るなるを

干潟の呼び声—ふかんどに

尽くしてまかすの一心^{ひとこころ}

進む「谷津干潟のクリーン化」

△提供▽
環境美化委員会
朝日新聞

女の細腕
+
建設会社の
機械力

「クエーツ、ウ
エーツ」
丁子。「ハナと
手に、刀ノ白い
と感が今と離れ
ないのよおー」

頭の花までコビリツイテ
ルのおしと、S子。腐っ
てドロドロし、ハナと曲
りそうな、捨てられたス
イカとヒーマンの山。そ
れでど、いっしょうけん
めい袋につめていました。



市民の主婦と、汗まみれ、泥まみれです



一、驛車場計画地が、確かに京成の所有地であることを証明する、書類・図面を提出して下さい。

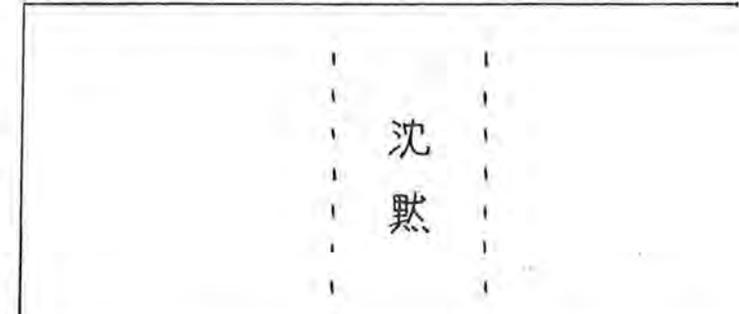
正に京成の土地です。書類はすぐ出します。

～1980.8.23～

会談にのぞんだ、六人(京成)に、「誰か、その書類を見たことが有りますか?」と聞いたが、誰も見たことはないと言った。土地の人や私の父の証言では、西側に出来ている今のグラウンドは、当時、全くなく、堤防から海がわは、すぐに干潟であったとのこと。私の小さい頃からの経験で、京成は、ゴミや土砂を何十年にわたってくり返して捨てながら、干潟の方へ、土をセリ出していくのを見ている。(当時の証拠写真有り)

二、貴社が撤去を希望する、テーブル・ベンチ・野鳥ポスト看板は、私を中心に、市・住民の協力で製作した。しかし、それが現在あるは、千葉県・企業庁と私達三者の合意ないし話し合いの結果なりたるもの。企業庁が約束を守り、干潟の美化に協力してくれて、私達に感謝している。何十年たの久しきにわたって、海の恩恵を受けている。ゴミを不法投棄し続けている、貴社とは同日の談ではありません。ベンチ等については、企業庁・自然保護団体・貴社 報道関係者・利用市民・私の六者、公の場で会談を希望する。

沈黙



以下は次号へ続く



我になわん 負いし来たりし「ふかんど」の痛みと重荷を想いよば 彼我の境も無かるべし

一つ、また一つ、ゴミを拾っていく。そうすれば、その分だけ、谷津干潟の、あの「ふかんど」の荷が軽くなる。そう思い、信じている。だから、私はやっていく。できる時に、できる所で、絶え間なく。うまずたゆまず、どこまでも、そしてまた、どこまでも。私は新聞販売店員だ。自然愛好家や野鳥観察者ではない。その当時は見はるかす限りの干潟だった船橋市の海辺に育った。貧しい家の子ともなった。自然保護のことにはなにも知らない。干潟は埋め立てられて、住宅地や工業用地になった。わずかに残された谷津干潟(二〇〇)の数本の杭が私の記憶を呼び起こした。

谷津干潟クリーン作戦

1980.10.10日号

私が、子どものころ、カニや魚と遊んだ「ふかんど」(深いところ)だった。私は干潟のゴミを拾いはじめた。六年前のことだ。わが身も、少しでも、ほんの少しでもいい。干潟の負える重荷をとりのぞいてやりたい。山のとき大をなす、圧倒されんばかりのゴミも、見れば、そのすべては皆一つずつではないか。だから、私は一つ一つ拾っていく。ただもう、それだけ。何で気落ちしたり嘆いたり、思い煩い、論ずるのみにて、コハ時をムダにしてよいものか。それらが、干潟をきれいにせんといふことより、大切なのか。なんで、できないものを数えたり、それにひたるのか。

森田 三郎 (千葉県市川市)

20ha---50ha

や野原につれていってくれたガキ大将のマーちゃんに感謝する。明暗、上下左右にゆれ動く、愛転きわまりなきわが心。なれども「干潟の重荷と痛みを軽しめん」という想いの前に、すべては背後に退く。いま、ここから、この身のままで始めるのだ、といつも思っていた。そうして、精神的戦線を何度も立て直してきた。勇気をもって正面へ足を踏み出し、干潟の呼び声のする方、その彼方へ眼を転ずればよい。太陽に向かうのだ。みずからのほか、何か、これを妨げるものがあるだろうか。思うに、問われているのは干潟の価値ではない。われわれなのだ。干潟にとつてどんな人間だったか。干潟のために何をしてやれたか。その人自身が「答え」なのだ。海との水路の拡張で、カニや魚や水鳥が増えてきた。ゴミを拾いながら彼らの間に答える。埋め立て地の地下に埋もれし、幾億方の干潟の仲間が、心の声を叩く。「どんな人間として、われらと相対すや?」と。

列島診断

感想をお寄せ下さい。(一気に書きましました)

谷津干潟クリーン作戦とは陳腐な名だ。バカ、気がかい、土人、売名行為、よそ者、汚ネエ、といわれた。精神的税金と思う。でも一人、また一人、お茶を、ロープやマキ割りを、ゴミ袋を車を水を弁当をカンパしてくる人が出はじめた。そして、近所の主婦の人たちがゴミ拾いに参加し始めた。「私」から「われわれ」になった。いま、女の細腕を中心に、千葉県企業庁、建設会社、大蔵省(干潟の所有者)も協力している。しかし、隣接する谷津遊園の経営者京成電鉄は、海の恩恵を受けながらゴミの不法投棄をし、駐車場のために干潟の一部の埋め立て工事着工を強行した。私「われわれは、手を差し出し踏み込んだのだ。その小さな、やせかけた「可能性」に。トンネルの中から遠くの点のような光の出口を見る。そんな心境だ。たとえ出口がなくともよい。谷津干潟の重荷を軽くしてやろうと、努力する能力を与えてくれた父や母に感謝する。そして幼き日、広い干潟

(もりた さぶろう・新聞販売店員)

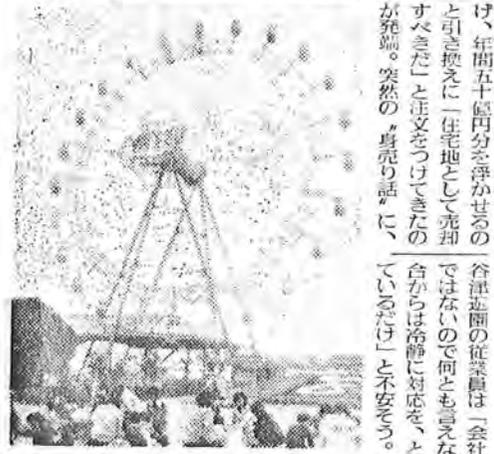
谷津遊園の処遇と所有主が不明では、京成との会談は困難になりそう

谷津遊園を身売り?

京成再建へ銀行が条件

1980.11.23日
基園長は遊園地損壊を訴え中だ。
谷津遊園は大正十四年十一月の
開園。面積は約二万五千平方
メートル。年間入園者は百六十
万人。県内や都内から、幼稚園児、
小学生が定足にも訪れている。大
小三千種類の遊具、白クマやチン
パンジーなど百種類の動物、とり
わけ一万八千株のバラ園は東洋一
とも言われている。売売巨人車発
祥の地としても知られ、園内には
その記念碑が建てられている。

谷津遊園が身売り?。親会社
京成電鉄の再建問題に伴い、支
援銀行九行が金利減免の引き換え
として提示した条件に、谷津遊園
の処分が含まれていることが明ら
かになり、関係者を驚かせてい
る。従業員らも「黒字経営なのに
まさか」と信じられない表情。京
葉地区に数少ない行楽地として親
しまれてきただけに、いざ閉園と
なれば、社会問題にも進展しそ
うだ。



身売り話が持ち上がっている谷津遊園

谷津遊園の従業員は「会社前の話
と引き換えに一住地地として売却
すべきだ」と注文をつけてきたの
が発端。突然の「身売り話」に、
「聞いてだけ」と不安そう。本多一
郎

珍鳥・谷津干潟に続々

〈初記録〉



1980.11.18(朝)

野鳥の楽園で知られる習志野市
の谷津干潟(ひがた)の草原に珍
しい「トラフズク」がいるのを
干潟の保護運動を続けている「谷
津干潟愛護研究会」の森田三郎会
長(左)と見つけ、15日、見守、カ
メラに取った写真。
同日午後、同市秋津のフジの茂
みの中にひそんでいるのを発見し
た。「トラフズク」は通常は森林
の中に住む多くの仲間、秋が
近づくと、北方の地を去って南へ
下る。森田会長によると、シペリ
アで繁殖して、南へ向かう途中、
谷津干潟に立ち寄ったのではない
かという。

ふかんど物語

(6) 月刊の「らし」の中
「うんが」の名残り
絵と文 森田三郎

干草山道が船橋へ取手線と交わ
るリド下、海寄りのところに細
長く船の形をした、古びたコン
クリートの柱がある。二本は心き
出しのまま。一本は半ば土手に埋
むれ他の一本は花輪インターの土
の中にかくれている。
父や古老の話によれば「運河」
の水門にするためであったらしい。
戦前、国では利根川から谷津を
経て東京湾に通ずる運河を作る計
画があったという。だから、もし
この計画が完成していれば、いま
ごろは汽船がここを行き交う光景
を見ているかも知れない。
かつてここには湧き水もあって
子供達はその水を飲んだり、汚れ
た体を洗ったり、疲れた体をいや
したりしたものだった。



高のグラウンドが大きな穴のよう
に落ち込んでいるのは、そのため
である。太平洋戦争による工事の
中断がなければ、船高の生徒たち
は校舎の窓から「ボート」と汽笛
を鳴らしながら走るハシケの通い
を見て勉強していることになる。
その、U字形にくぼんでいる一
帯を、子供のころ私達は「うん
が」と呼んでいた。「うんが」の
ところは船橋市だが、習志野市と
の境い目でもあった。ここはまた
東経14度の線上でもあり、私たち
は「山崎別荘」と呼んでいた。う
っそうとした大きな森の木のとっ
べんには、白い旗が立っていた。
そのころの「うんが」あたりは
人家がほとんどなく、U字形の広
くて長い「谷」には一軒もなかつ
た。南の方は、野原と畑の遠くに
海が大きく広がり、白帆がいつぱ
い浮かんでいて、はるか彼方に房
総の青い山なが見えた。
ススキやカヤなど背の高い雑草
がところどころに茂っていて、踏
みつけ道をたどって走り回る子供
たちの姿が、スッポリとかくれて
しまふのだった。こんな草原と畑
のだった広いところであったから
キリギリスなどのバツタ類の天国
でもあった。

運河の名残りはもう一つあ
る。谷津干潟から始まって、まっ
すぐ北へ向かい、現在の谷津ハイ
ツ→花輪インター→東金街道にぶ
つかる船橋高校のグラウンドまで
水河のようにU字形にくぼんでい
るのがわかるだろう。運河を作る
ために掘った、その跡である。船

乾燥した土の匂い。いたるところ
でするトノサマバツタやキリギリ
スの声。夏の夕方のすさまじい
ばかりの大合唱。秋のゴトゴキ
のわき上がるような鳴き声。初
秋の、さわやかで澄みきった、そ
していくぶん寂しいススキ野原や
草の波。野ウサギが「いっぴいと
んでいた」「ウサギ山」というと
ころがあった。初秋の夕焼けだった
みんな、まっかつかになるころ、
あとには野ウサギが、そして前に
は広大な干潟と白帆と山なみ
風車と沼とヨシ野があって、バツ
タ採りの帰り、ぼくはただボツッ
と見ていた。

夏、ムツとする草いきれと、
乾燥した土の匂い。いたるところ
でするトノサマバツタやキリギリ
スの声。夏の夕方のすさまじい
ばかりの大合唱。秋のゴトゴキ
のわき上がるような鳴き声。初
秋の、さわやかで澄みきった、そ
していくぶん寂しいススキ野原や
草の波。野ウサギが「いっぴいと
んでいた」「ウサギ山」というと
ころがあった。初秋の夕焼けだった
みんな、まっかつかになるころ、
あとには野ウサギが、そして前に
は広大な干潟と白帆と山なみ
風車と沼とヨシ野があって、バツ
タ採りの帰り、ぼくはただボツッ
と見ていた。

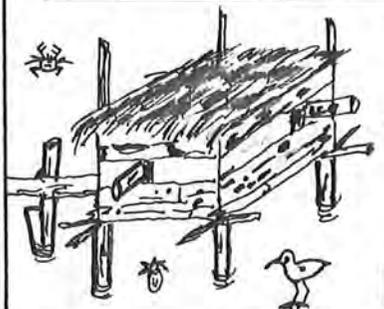
谷津干潟にコハクチョウ



百羽のカモなどにまきわて、やっ
てきたのではないかと、とみてい
る。

東京湾に残された数少ない干潟
(ひがた)の二、習志野市の谷
津干潟にコハクチョウ一羽が飛来
しているのが19日、見つかった。
同早稲の保護運動を進めている谷
津干潟愛護研究会によると、ハク
チョウが同干潟に飛来したのは初
めて。同研究会は緊急でも極め
てまねごととして当然、観察を
続けることにしている。
確認されたコハクチョウは羽を
ひろげると幅一メートルほど、羽
がやや茶色がかっており、ちよう
どひながら成鳥になる直前の幼
鳥。九日朝、干潟周辺に住む閉地
の住人が散歩中に、白い大きな鳥
かいるのを見つけた。同研究会に連
絡した。同研究会では、この干潟
にコハクチョウが飛来しているのは

同干潟はかつて干潟で、隣接
の京成電鉄谷津遊園が駐車場拡張
のために、このうち四一畝を埋
め立てる計画で、現在住居団体系
か保護運動に乗り出している。コ
ハクチョウが降り立ったのはちよ
と、この埋め立て予定地の真
ん中。コハクチョウはエサをい
はんたり、周囲を見回したりしな
がら、歩き回って、ついに遊園
園地の駐車場には近づかず、遊
園のキヤッチボールをくわして
遊んでいた人たちをもびつくりさ
せた。
(十一月十一日・朝日)



水上観察舎
只今建設中!
全国で最初の試み



寒風の中、泥と汗にまみれて悪戦苦闘(高木カメラマン提供)

コハクチョウは京成の埋め立て工事に抗議に来たのです

谷津干潟水上観察舎は谷津干潟愛護研究会の手で進められています

京成が実行を確約せし事

- 一、干潟へ不法投棄されているゴミは全て、回収・清掃する。
- 二、干潟へゴミが投棄されないよう、具体的方法を講ずる。
- 三、会員あるいは清掃する人は、住所・氏名・年令を連絡して、園内を無料通行できる。
- 四、環境美化委員会が進めている「クリーン作戦」に協力する。
- 五、工事計画地が京成の所有である事を証明する図面・書類を提出する。

◀ 京成が干潟へ不法投棄したゴミ ▶

大正に開園して以来、永年、海之恩恵を受けて来た京成が今、このゴミをどってしてその答えとしていのが実態です。



京成一東京都墨田区押上一一三 03-625-1111

「ボランティア」に御協力を

● 毎週日曜日 行なわれています ●
 谷津干潟愛護研究会と環境美化委員会の協力によるもの。クリーン作戦・ペンキぬり・観察・小屋づくり・ベンチやテーブルの修理・看板づくりなど、何でも――。
 ・長塚 0474~51~7054
 ・森田 0473~38~6668

復活したぞ！ 潮干狩り

津 水ぬるむ頃
 干 子供たちが
 アサリ・シオ
 フキ・マテガ
 イ・シヤコ・
 カガミガイな
 どを皆んなで
 取っていた。



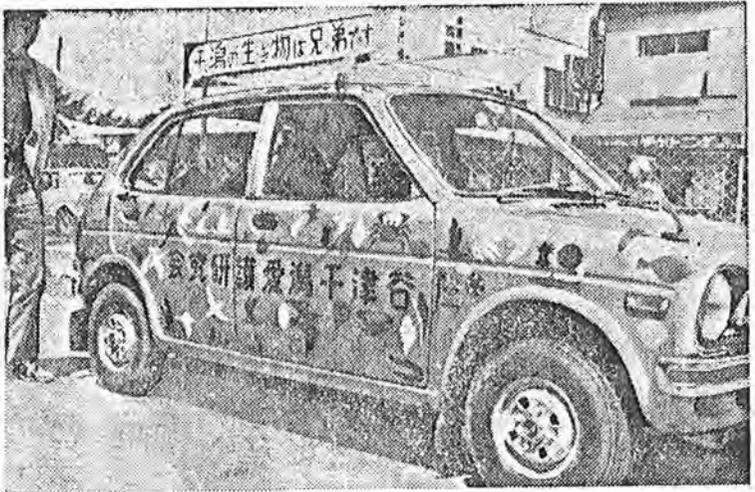
1980年(昭和55年)4月11日 金曜日 (アサヒ)

動く生物図鑑

野鳥の楽園として知られる習志野市谷津の谷津干潟保護運動に取り組んでいる市川市本北方二丁目、谷津干潟愛護研究会長森田三郎さん(左)は多くの人に干潟を理解してもらおうと、マイカーの両側ポスターに干潟



に生息する野鳥、魚介類などの絵を描き走り回っている。干潟は年々、埋め立てられ、現在は五十余町。常に千五十三種類五、六千羽の野鳥が生息している。森田会長らはこれまで干潟を国の鳥獣保護区に指定するよう国に働きかける一方、先月23日には第1回のクリーン作戦を行ったが、さらに保護運動を盛り上げようとして



三万羽がめでたマイカーに赤、青、緑、黒、白、黄色のペンキで下塗り、シキ、カモ、サギ、カニ、エビなど百七十の絵と「干潟の生き物は兄弟です」と書き添えた。いわは、動く谷津

人気上々

見てわかれば、それが良い。特に子供達に人気がある。一目見て谷津干潟にすむ生きものがわかる。

干潟生物図鑑。「谷津干潟の貴重さを理解してもらい、保護運動にプラスになれば……」と同会長は話している。

この本をすすめる

「處世神訣」
 バルタザール・クラチアーン
 「未見への出発」
 安積得也

「宗教的経験の諸相」
 ウイリアム・ジェームズ

へ会員の声、一〇号から見てくると、作り方が大変進歩しました。(主婦)

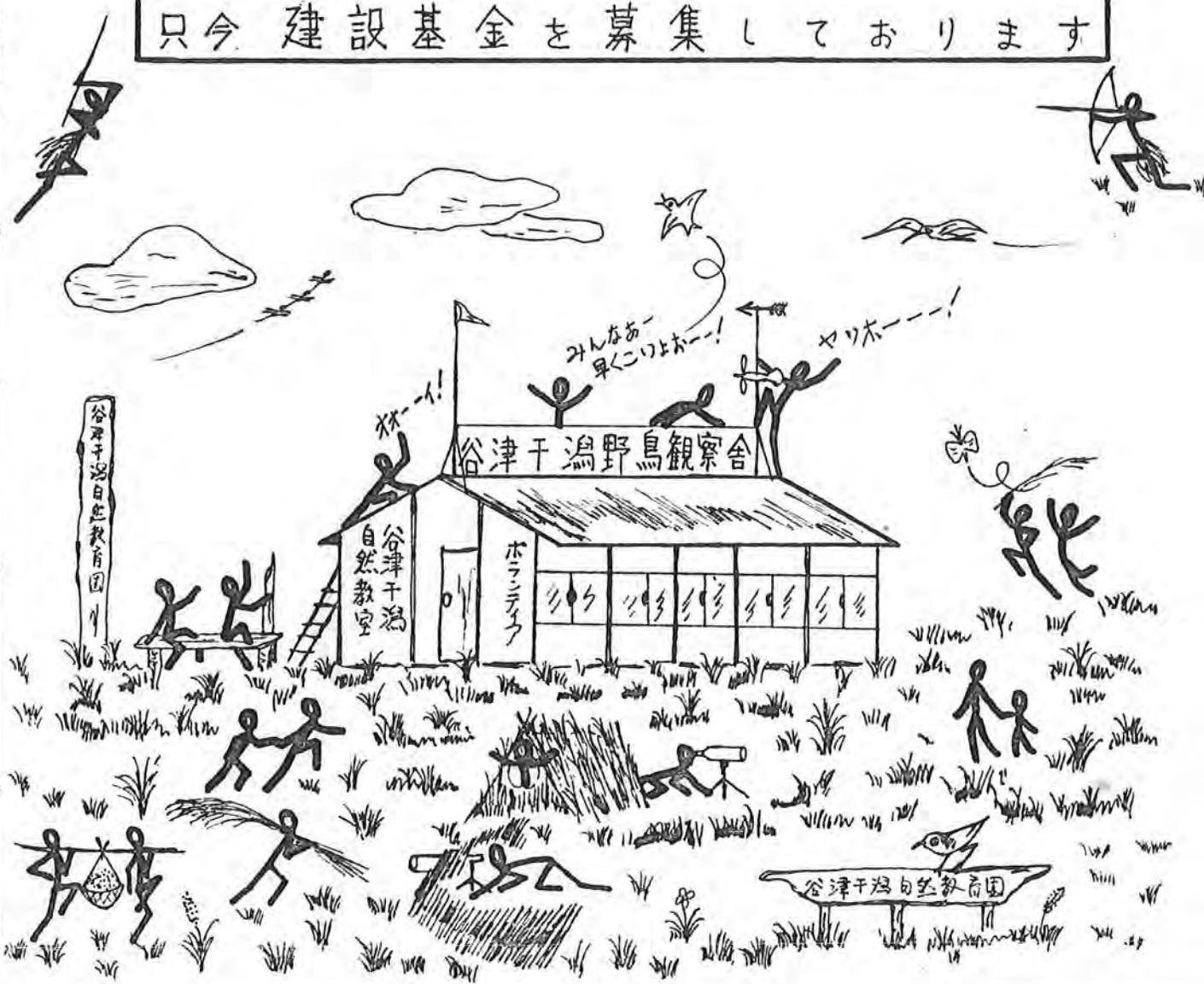
◎ 行政の怠慢を頼りつつまで待てません。市民自らの手で観察をつくりましょう

使用と目的

- 1 干潟とその周辺に生息する生物の、調査・観察・保護の為。
 - 2 フィールドワークの利便を図る。
 - 3 理科・社会科・情操教育の一助に。
 - 4 風雨・寒暑を避け、休息所とする。
 - 5 干潟の環境美化とその保全の為。
 - 6 自然と生物の触れ合いの場とす。
 - 7 救急用具・医薬品を常備する。
 - 8 地域住民の交流の場。
 - 9 主に、児童生徒の教育の場とする。
 - 10 パネル・生物標本・図鑑・双眼鏡・望遠鏡・案内図・テーブル・イス・ロープ・大工道具・清掃道具・図書・各種出版物などを設置する。
 - 11 意見・情報の交換、コミュニティの場とし、いわゆる公民館的な機能とす。
- その他。
- x x x x x x
- ∴ 尚、将来、本格的な観察舎完成までの「つなぎ」とし、後、国が県に寄贈す。

今、谷津干潟に「野鳥観察舎」が必要と思いませんか

只今 建設基金を募集しております



広さ・5間×3間 プレハブ平屋建て 建設資金の予算・90万円

□座・千葉銀行本八幡支店(012) No. 54848 - 谷津干潟野鳥観察舎建設基金
協力-朝倉南海雄・石川敏雄・志村英雄・市田則孝・大清清・環境美化委員会

ふかんど

一才11号一

1981・1月5日
毎月1回発行

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五番六
電話 0476-31-6668
文責・発行 森田三郎

会七年 2000



↑ふかんど・・・広大な干潟で、赤銅色の子供達が馬とかけっこをしていた頃の谷津干潟の名前

● 谷津干潟クリーン作戦は毎日、常に、断之間なく展開されておりあります ●

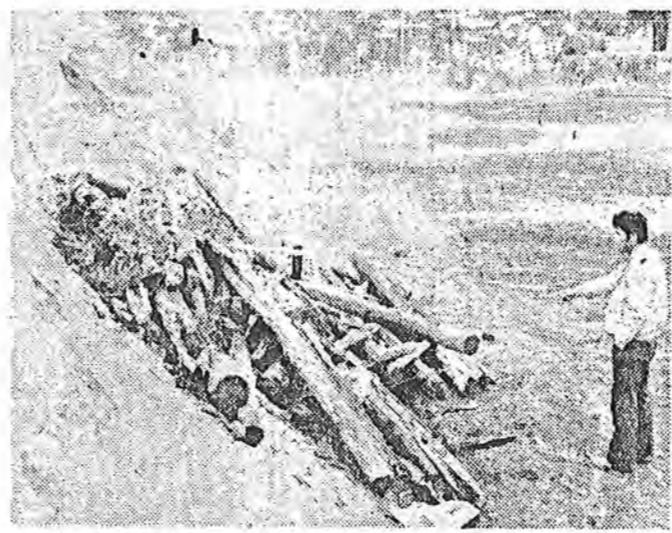
・・・コンナ事モアリマシタ ― 文教都市宣言が泣いています・・・

嘆きの「谷津干潟」

クリーン作戦さいの河原

どきどきとゴミ、投棄

清掃の翌日、トラックで



野鳥の楽園「谷津干潟」に捨てられた古材に憤慨する森田さん

京葉地区に数少ない、野鳥の楽園として残っている干潟が、この「谷津干潟」(習志野市合津)の保護運動に取り組んでいる「谷津干潟環境美化委員会」(森田三郎会長)が、大がかりなクリーン作戦で干潟を清掃した翌日、心ない人が小型トラックで自分の古材やゴミを干潟に投棄し、委員会のメンバーを「なぜこんなことを……」と嘆かせている。

同干潟は広さ五十数畝で、季節所の人たちも、干潟を汚さないように野鳥が羽を休めたり、エサを求めするために舞い下りたりしており、常に二十数種類の野鳥が生息している。同委員会では、毎週日曜日にゴミ拾い、毎月第三火曜日にはトラックやクレーンを使って大規模な清掃を行っている。

さき二十一日の日曜日、十数人が参加して、大がかりな清掃をした。ところが、翌日の二十二日、大量の古材とゴミが捨てられてしまった。住居を解体した古材とゴミで、近くの人が捨てたことがわかったが、同委員会では「近

所の人たちが、干潟を汚さないよう協力してもらいたい」と訴えている。

同委員会の清掃主任は、野鳥の楽園が投棄される粗大ゴミで汚され、水際がゴミで埋まってしまったのを見た市川市北方の三五の六、誠亮新聞配達員、森田三郎さん(五十歳)が、さき五十三日九月から、一人で黙々と清掃を始めたのがきっかけ。干潟のゴミを拾う森田さんの姿が、誠亮新聞で紹介されると、干潟近くに住む主婦や学生が協力するようになり、同委員会を設立した。森田さんには「多

くの人の協力で、ここまできれいになったのに……。干潟はゴミ捨て場ではありません」と、憤慨している。

で、翌々日には、キレイにサッパリとなりました。市と警察の協力によって。

習志野市が初めて、干潟への不法投棄禁止の呼びかけを、広報車でしてくれました。

春は未だ遠けれど

我らのあずま屋

全ては流木と周辺のヨシで作った。日曜日とよなれば、皆ここに集まり、ベースキャンプだ。

日ごとに歩む

ボランティア活動

不法投棄されたゴミは、このようにして集められ、クリーン作戦で続々と運ばれる。

カンパのお願い

不法投棄物の大部分はガラス・鉄・コンクリートの為、大量の土ノウ袋が必要です。

この本をすすめる

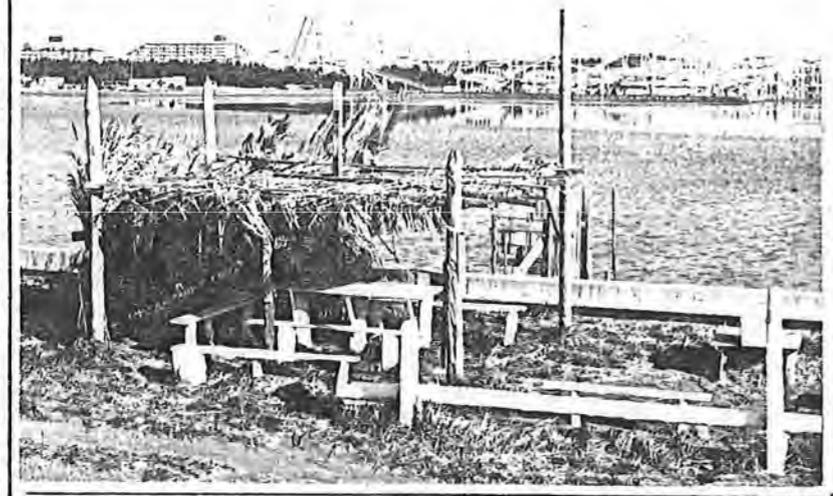
「生命運用の知恵」アレクシス・カレル

「富の福音」

アンドリナーカーネギー

「科学の方法にフッて」

クロード・ベルナル
三浦岱栄 訳



▼「ボランティア活動」に御協下され。連絡 0474-5170(五面(長塚)) 0473-668(森田)

ふかんど

— 12号 —

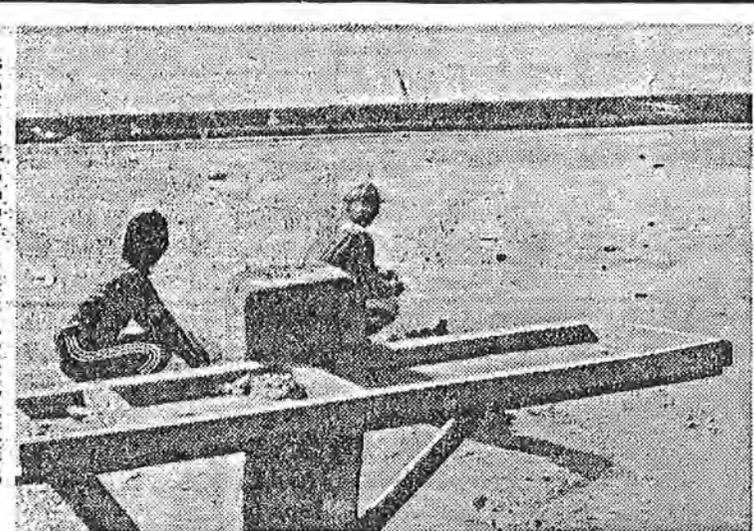
1981年2月5日
MONTHLY

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五五ノ六
電話 0473-6668
文責編集 森田三郎

会七年2000

PRINTED IN
ウエダ

へふかんど... 熱い銀色の砂みちを、赤銅色の子どもが、松・夏草・潮の香に鼻をヒクヒクさせながら歩いていた頃の谷津干潟



野鳥たちが早手を叩いてくると、ほら、きれいになった谷津干潟
— 習志野市谷津三丁目 —

野鳥の楽園よみがえる

東京湾奥部に残された最後の野鳥の楽園である「谷津干潟」をめぐり、昨年から始まっていた「谷津干潟愛護研究会」(森田三郎会長)の同干潟クリーン作戦が着々と成果をあげ、ゴミの出たあたり一帯は見違えるまでにきれいになった。最近では野鳥たちが、樂園近くまで寄ってくることが多くなり、受けにも成功するまでになった。

クリーン作戦実を結ぶ え付けにも成功

同研究会委員や、地元の主婦に、地元の習志野市もクリーン車を備蓄して始めたクリーン作戦。車を投入して、協力隊員から委託した砂浜にはかわいらしい鳥たちのアシがはびこり、ゴミも減った。果ては、ゴミを拾ったボランティアも、竹中土木共同企業体、干潟の車、家庭用製氷機など大型ゴミは、埋立地側へ運ばれた。次々に撤去されたほか、砂浜を覆

谷津干潟 クリーン作戦 モデル地区

かつては、ガラス・コンクリート・カワラ・鉄クズ・燃えカス等、生活廃棄物のゴミの山だった所。今、カモ・サギ・シギ・チドリなどが来る。3月末に設定を予定し、進行中。

「環境は良くなるのではない、良くなるのである!」

谷津干潟の環境美化を市民の手で進める為... ボランティア活動に参加を

右の、この精神をきいて、私達は谷津干潟の環境美化に毎日励んでおります。何故ならば、それが、単なる主義・主張、スローガンではなく、日常生活の一部になっているからです。少しでも、ホンの少しずつでもいいのです。出来る人が、出来る事を、出来る時に、出来る所で、共に皆んなで良くするのです。

連絡 習志野市秋津3-2-16 0473-51707 長塚
連 市川市本北方2-35-6 0473-6668 森田

流れ木によせて

「クリーン作戦随感」
流れ木の
朽ちた貝の着きあは
語りや旅路の想い出を
遠き小まきと出でより
用いつ捨てられ傷つき
かの地先の国漂りて
いかる懐りをめぐりや
「ゴミ」と人は言えは
視つめた我はふれはこ
いかで粗末に遇すべき
かくも疲れ一返るれば
谷津の干潟に憩うべ
(天八二年一月二五日)

地域住民の協力なくしては、今日の谷津干潟は有り得ませんでした。

へふかんど・・・広い干潟の見える大きな榎の上から潮の具合を見て叫んだ頃の谷津干潟の名前

ふかんど

— オ13号 —

1981.3.5
MONTHLY

谷津干潟愛護研究会
 谷津市 北条二丁目三五ノ六
 〒272 電話 0474-51-1666
 文責・発行 森田 三郎

年会ヒ2000

PRINTED IN
ウエダ

東京湾部に残された野鳥の楽園「谷津干潟」は習志野市谷津の「国設鳥獣保護区」指定に向けて、運動を続けている谷津干潟愛護研究会(森田三郎代表)は十七日、同地区に野鳥観察舎への構想を発表した。日本野鳥の会本部、同千葉支部、千葉の干潟(ひがた)を守る会の有志も賛同しており、今後、建設資金の協力などを住民に呼びかけてゆくが、設置場所が県企業庁の所有地だけに、同庁の出方が注目される。

野鳥の楽園に観察舎計画

朝日 1980.12.28

谷津干潟 愛護研 広くカンパ集めも

だが、環境庁、県習志野市の方がプレハブづくり、予算は約九十万円。設置場所は以前、県企が、この観察舎の設置を土地所有者の同意が認められるかどうかが、法的には「不法占拠」となるため、クレームがつきそうな心配だ。

なお、建設資金カンパの連絡先は次の通り。(市川市本北方二ノ三五ノ六、森田方〇四七三三三 八六六八、習志野市本条銀行本八幡支店、口座番〇二二五四八四八)

森田代表の話 いつまでも待たられない。企業庁と話し合いをしているが、設置場所は県企業庁も自然緑地として使おうことを以前に認めているのだから、問題は佳境の場にとんと入り込んでいないはずだ。

1980.12.20 早す

谷津干潟クリーン作戦

モテル地区設定 へ向けて

ボランティア参加を呼びかけるから・・・

たった一人で始まった
 クリーン作戦。その後多くの
 の方々との協力を得つつ、
 今日に至りました。とくに
 主婦・地元住民の様々な

な方法による協力は、クリーン作戦を断え間なく進めるにあたって、その力大なるのが有りました。

例え、力小なりとど、つまずき転びつつも、私達は、五年、十年、二十年と続けていきます。



干潟の想い出ーペン画・A1大希望者に分けます。定価300送料共500

野鳥の楽園救って

谷津干潟埋め立て保護団体かけつける



谷津干潟埋め立て工事現場前でアラカードを持って抗議する大浜さんら

京成電鉄が二十四日、習志野市・谷津遊園の駐車場確保のため谷津干潟に広がる有地四・四畧の埋め立てに着手したのに対し、自然保護団体は、せつかくの野鳥の楽園がせめられると力を落としている。習志野市でも、大蔵省管理の干潟の一部を埋め立てる方針を打ち出しているため、京成電鉄の埋め立てが楽園喪失の引き金にもなりかねず、関係者をあせらせている。

この日の埋め立て工事着手は二十三日夜、自然保護団体の代表者らに急ぎ、知らせられた。あわてた谷津干潟愛護研究会の森田三郎代表と日本野鳥の会千葉支部の志村英雄幹事、千葉の干潟を守る会の大浜清代表ら八人が「谷津干潟を守れ」と書いたプラカードを

持って現場に駆けつけた。昼前から雨が降り出したこともあって、工事は中断したが、大浜さんらは「工事計画を修正し、野鳥生息地の消失を最小限に食い止めて」と記した文書を求め合わせた。京成電鉄の中垣行博広報課長に手渡した。同課長は「皆さんの意向を会社の幹部に伝えます」と答えた。

谷津干潟の保全については、すでに興が五十二年から始まった環状線の第四次鳥獣保護事業計画に盛り込まれているが、習志野市は宅地として過密化する周辺地区の学校用地など公共用地取得のため、埋め立てる方針を立てており、また「干潟の憩い」といふなどという住民の声もあり、

読売新聞 2月25日

野鳥の楽園 風前のともしび

京成埋め立てを再開

経営悪化 自然保護団体は抗議

野鳥の楽園として知られ、自然保護団体の強い反対でストップしていた谷津干潟(ひがた)の埋め立ては、京成電鉄(佐藤光夫社長)の経営悪化に伴って、二十四日、突如、再開された。野鳥の楽園の代表者が、現地へ抗議行動をしたが、京成側は工事を続け、早くも埋め立て用の山砂を搬入するた

め、仮橋建設にとりかかった。その後、各団体とも、工事中止を求め、さらに運動を展開してゆく構えだが、京成側の姿勢が「経営悪化のためむねをえぬ措置」とかつてなく強硬のため、野鳥たちの貴重なエサ場が土砂の下に埋められるのは避けられない情勢となってきた。

「谷津干潟を守る会」(代表 森田三郎)は、さらにこのほど旧日本野鳥の会千葉支部から三つに分裂した「千葉野鳥の会」(会長 石川敏雄)千葉支部と「日本野鳥の会千葉支部」(会長 高橋敏夫)のメンバーが二十四日午前、現場の工事事務所へ、中垣行博京成本社広報課長と会談して、「これ以上の自然破壊は許さない。即時工事を中止してほしい」と抗議した。

そのさい、各団体はそれぞれの申し入れを行ったが、日本野鳥の会千葉支部の志村英雄幹事と森田三郎代表は「谷津干潟の埋め立ては、埋め立てられる地域を、環境庁が鳥獣保護区として買い上げ、その方針を京成側に伝えた。志村氏による今週中にもこの問題で環境庁側と話し合うという。日本野鳥の会本部では「以前にも同

社から各団体へ通報された。以前から谷津干潟の保存運動に取り組んでいた「千葉の干潟を守る会」(代表 森田三郎)は、さらにこのほど旧日本野鳥の会千葉支部から三つに分裂した「千葉野鳥の会」(会長 石川敏雄)千葉支部と「日本野鳥の会千葉支部」(会長 高橋敏夫)のメンバーが二十四日午前、現場の工事事務所へ、中垣行博京成本社広報課長と会談して、「これ以上の自然破壊は許さない。即時工事を中止してほしい」と抗議した。

一方、千葉の干潟を守る会の代表者は「全国第一級の水鳥渡来地である谷津干潟が、その約一割の重要部分を失うことは私有地とはいえ、まことに遺憾である」と、干潟の消失を最小限に食い止めるよう、計画修正を求める佐藤社長あての要請書を出した。

埋め立てられるのは、谷津遊園の駐車場に接した約四万四千三百平方メートルの自然干潟。同社が大正十四年に当時の塩田を買収した。谷津干潟の約九割を占める国有地に隣接し、カニや貝、ゴカイなどさまざまな生物が生息、野鳥たちの貴重なエサ場となってきた。京成側は数年前から同地区を埋め立てて、駐車場にしたいとの意向を示していたが、各団体の強い反対で着工を見送っていた。しかし、昨年八月二十一日、抜き打ち的に工事を始め、それ以来、各団体との対立が続いている。

中垣京成電鉄本社広報課長の話



谷津干潟埋め立て工事再開で抗議する自然保護団体の代表 習志野市谷津で

指定には真つ向から反対している。現場では、「貴重な場所だが、地元がすっきりしない以上、埋め立てのための公聴会も開けない。これまでも保護団体から京成所有分の買い上げの要請を受けてきたが、全体計画が決まらない以上、断り出せない」と、貴重さを認めながらも慎重な構えだ。首脳陣で残り少ない野鳥の宝庫だけに、関

保者たちはこの工事で生態系が狂わなければいい」とハラハラしている。

産経新聞 2月25日

谷津干潟が駐車場に

市民 京成へ埋め立てを抗議

【習志野】京成電鉄(本社・東京、佐藤光夫社長)が、駐車場用地として計画している習志野市谷津の「谷津干潟」の埋め立てに反対している地元市民団体「谷津干潟愛護研究会」(森田三郎代表、会員 千五百人の森田代表ら三人)は、二十四日、干潟埋め立ての現場事務所へ押しかけ、埋め立てをしないようにと要求した。

谷津干潟は、谷津遊園前面にあり、面積は約五〇〇〇。全国でも有数の野鳥の楽園。と知られているが、京成所有の一部約四・四畧が駐車場用地として埋め立てられることになり、このほど土砂運搬用の仮橋建設などの工事がはじまったため、この日の抗議となった。

同愛護研究会では干潟には約二万羽の野鳥が生息しているの埋め立てないでほしいと、現場事務所へ抗議行動を呼びかけ、現場に駆けつけて京成用地を買い上げてもう一つ、それまで工事を待たせてほしいなどと申し入れた。

これに対し、京成本社企画部の中垣行博広報課長は「愛護研究会の要求は会社役員に報告し検討したい」と答えた。

谷津干潟

当社の経営悪化は、公共性の強い鉄道を現状維持でできるかどうかの瀬戸際まできている。累積赤字は昨年九月末で百三十三億円のにも達し、保有資産を処分して経営改善をせざるを得ない状態だ。今回、問題となっている干潟部分は少ない資産のひとつで、埋め立てて価値を高める必要がどうしても出てきた。経営状態が良い時は干潟として残しておくこともできたが、今となってはそれの余裕はない。

毎日新聞 2月25日

埋め立て工事再開

環境保護団体反発

京成電鉄(本社・東京)が、習志野市谷津の「谷津干潟」の埋め立てを再開したのに対し、同干潟は野鳥の宝庫として知られ、自然保護団体の強い反対でストップしていた。埋め立て再開に反対して来た干潟愛護研究会の代表者が、現地へ抗議行動をしたが、京成側は工事を続け、早くも埋め立て用の山砂を搬入するた

め、仮橋建設にとりかかった。その後、各団体とも、工事中止を求め、さらに運動を展開してゆく構えだが、京成側の姿勢が「経営悪化のためむねをえぬ措置」とかつてなく強硬のため、野鳥たちの貴重なエサ場が土砂の下に埋められるのは避けられない情勢となってきた。

「谷津干潟を守る会」(代表 森田三郎)は、さらにこのほど旧日本野鳥の会千葉支部から三つに分裂した「千葉野鳥の会」(会長 石川敏雄)千葉支部と「日本野鳥の会千葉支部」(会長 高橋敏夫)のメンバーが二十四日午前、現場の工事事務所へ、中垣行博京成本社広報課長と会談して、「これ以上の自然破壊は許さない。即時工事を中止してほしい」と抗議した。

そのさい、各団体はそれぞれの申し入れを行ったが、日本野鳥の会千葉支部の志村英雄幹事と森田三郎代表は「谷津干潟の埋め立ては、埋め立てられる地域を、環境庁が鳥獣保護区として買い上げ、その方針を京成側に伝えた。志村氏による今週中にもこの問題で環境庁側と話し合うという。日本野鳥の会本部では「以前にも同

社から各団体へ通報された。以前から谷津干潟の保存運動に取り組んでいた「千葉の干潟を守る会」(代表 森田三郎)は、さらにこのほど旧日本野鳥の会千葉支部から三つに分裂した「千葉野鳥の会」(会長 石川敏雄)千葉支部と「日本野鳥の会千葉支部」(会長 高橋敏夫)のメンバーが二十四日午前、現場の工事事務所へ、中垣行博京成本社広報課長と会談して、「これ以上の自然破壊は許さない。即時工事を中止してほしい」と抗議した。

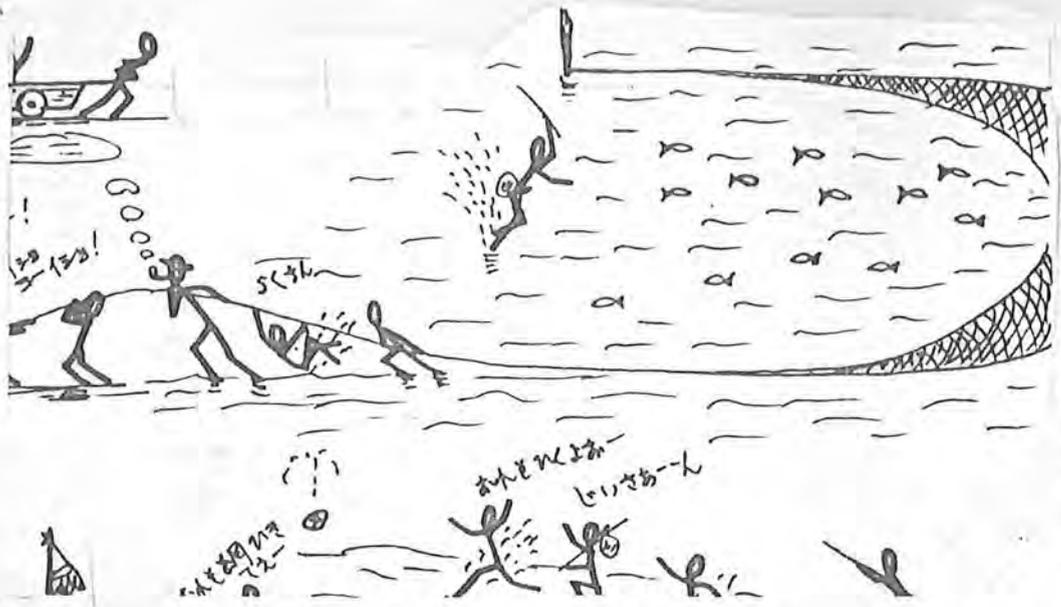
一方、千葉の干潟を守る会の代表者は「全国第一級の水鳥渡来地である谷津干潟が、その約一割の重要部分を失うことは私有地とはいえ、まことに遺憾である」と、干潟の消失を最小限に食い止めるよう、計画修正を求める佐藤社長あての要請書を出した。

埋め立てられるのは、谷津遊園の駐車場に接した約四万四千三百平方メートルの自然干潟。同社が大正十四年に当時の塩田を買収した。谷津干潟の約九割を占める国有地に隣接し、カニや貝、ゴカイなどさまざまな生物が生息、野鳥たちの貴重なエサ場となってきた。京成側は数年前から同地区を埋め立てて、駐車場にしたいとの意向を示していたが、各団体の強い反対で着工を見送っていた。しかし、昨年八月二十一日、抜き打ち的に工事を始め、それ以来、各団体との対立が続いている。

中垣京成電鉄本社広報課長の話

朝日新聞 2月25日

毎週日曜日ペン子の子の所で、谷津干潟観察会・クリーン作戦・ボランティア活動



ふかんど物語

—オウ話—

網曳きじいさん

絵と文 森田三郎

月刊・ならしの
好評連載中

今から二十年前くらい前のこと。谷津干潟の近く、少し沖の方へ行つたあたりで網を曳く、ひとりのじいさんがいた。そのじいさんは、キセルをふかしながら、麦わら帽子をかぶっていた。そして、ゆつくりゆつくりと、のんびりと、たつたひとりで網を曳いていた。そのじいさんをほく達は「網曳きじいさん」、そう呼んでいた。

海へ出るには、銀色にひかる砂道があった。ユラユラとかげろふのほり、真夏の太陽で砂道はとてまぶしかった。

「フカツフカツ」と裸足で歩いてゆく、赤銅色に焼けた干潟の子供たち。サラサラした砂道にな方はもぐりそうなる足の指の間からは、砂とホコリガ、シウウツシ「ウツ」と噴き上げるのだ。砂道のすつと先には、キラキラひかる海がちよつと見えていて、

かげろふでゆれていた。砂道の左側は松林と草むらで、ところどころに水たまりもあつた。だから、ときどきほく達の鼻には、松と夏草と水の匂いが、いれかわりヒクヒクと入ってくるのだ。右側は浜辺だった。海草がぶ厚く積もっていて、その中を歩くのはアルアルして気が持たなかった。「あーちつちつ」と言いながらほく達は、草の上や水たまりの中へ走っていつては足を冷した。それほど銀色の砂道の砂はとつても熱かつたのだ。それを何回もくり返しながら、海へ、沖へと歩いて行った。

あともう少しして海に—というところまで来ると、ほく達は「わあーい、うみだあうみだとおおーい」と叫びながら、いつせいに、くるったようにかけていった。焼けた砂もかまうこつちやない。足の下からは砂が舞い上つた。海へ出ると、とたんに視野がワ

イドスワリンのように広がった。胸に空気がいっぱい入ってくるようだった。そんな時は、大人も子供も、自然と大声をはりあげた。なつてしまふのだ。強い潮の香りと草の匂いで、身も心も躍動せずにはおかなかった。「ギャッ、ギャッ、アッ、アッ」と叫びながら、ほく達は広い干潟の中を、さちがいのようにかきまわった。そして、沖へ沖へと出ていった。その沖のただ中に、白い大きな入道雲の下に、ボツンと点のようになり、じいさんの姿があつた。

じいさん目ざして、ほく達は大人のように、また、背よりも高く水しぶきを上げてかけていった。近づいて、「じいさん、アッ」と言う。すると、「来たな、カキからア」と言った。そこでいつしよに網を曳かせてもらったのだ。

固い網と潮の匂いは、子供の心と体をかきたてるものがあつた。じいさんが、「あつ、すげえな、すげえな」と言う。なおもカ一杯網を曳くのだった。曳き終わると、スズメの子みたいに並んで、両手をおわんのようにして差し出した。手の中へ、じいさんが銀りん踊る魚を分けてくれた。その銀りんの輝きと、手の感触と、顔にかかる潮は今でも憶えている。

もつた魚は、海だまりでこつた、ほく達の「魚の水族館」に放してやつた。そして貝ガラや砂や海草などで「魚のおうち」をこさえてあげた。その中へは、また、カニや貝、ヤドリカやイソギンチャクやウミホウズキなど、取れるものは何でも入れてやつた。そうすれば、さつと魚も林しがないと、子供のほく達は思っていたのだ。

谷津干潟クリーン作戦モテル地区を3月末に設定します。

野鳥に魅せられて

五十嵐吉夫さん 一青戸7丁目



「野鳥の飛ぶ姿。それにエサをついばむ瞬間などが美しい」と、野鳥に魅せられたきつかけを五十嵐さんは語る。

葛飾区のお知らせ
(五六・正月)

五十嵐さんが野鳥に興味を持ち始めたのは10年以上前。日本にせい息する野鳥を求め北海道から九州まで、探鳥の旅を歩いた。「4年前の夏、北海道根室の春、北海道へ行ったとき、珍しいシギやチドリ類を観察することができたし、何よりも野鳥と周りの風景がとけあつていて、一番印象的だった」と思い出を話す。

「人間と野鳥が、仲良く共存できる環境」を夢見る五十嵐さんに、「自然人」を感じる。「今年も千潟近辺へ3年通つた成果として、『四季の鳥と環境』をまとめてみたい」と抱負も大きい。

営業実験

谷津干潟で

「その為のボランティア作業にご協力と参加を求めます」

「コアジサシ・シロチドリ・コチ

ドリ」の営巣地を作ります。

かつて京葉港には三種合計三千

ボランティア活動連絡先：...

047415117054・047313816668

「さつと早くから知り合いになつておきたかつた」とそう思わずにはいられない。変り、そこであつた3年前、セイタカシギが

「この本」をすすめる
「自省録」
「世界文化史大系」
H・G・ウェルズ
私は幸せと思つた。

私達は、出来る人が出来る時に、出来ることをしております。何とかして、谷津干潟を救いたいのです。方法は問いません。どなたでも。

谷津干潟クリーン作戦

東京湾に放さない野鳥の糞、として残っている習志野市の谷津干潟のゴミが、ゴミとクリーン作戦を繰り返している。習志野市「谷津干潟調査研究会」の森田三郎会長（市川市本北方二の三五の〇）に、地元習志野市の清掃事務所（岩下孝一所長）が協力することになり、二十七日、事務所事務員が干潟でゴミの実態を調査した。森田さんが一人で干潟の美化運動を始めて六年、護岸下を埋めていた建築廃材やゴミの山は片づけられたが、まだまだゴミは多い。干潟の美化運動は、もっと重い腰を上げた清掃事務所の岩下所長は「長くかかるかもしれないが、協力し合ってやって行きましょ」と約束していた。



干潟のゴミの実態調査をする清掃事務所職員と森田会長(右)

かつて干潟にほど近い、船橋市宮本に住んでいた森田さんにとって、干潟の荒廃は自宅の庭を壊されていくような苦しみ。野鳥をほめて、干潟の生物に住みよい環境を復元しようと、五十年前から粗大ゴミ拾いに熱々と励んできた。昨年四月には「谷津干潟クリーン作戦」と名付け、行政側や住民にも呼びかけながら、ゴミの山に立ち向かっていた。

しかし、広大な干潟のゴミはなかなか片づかない。五月三十一日、同研究会は、住民に環境の悪化を知ってもらおうと、集めたゴミを路上に積み上げた。この日、住民側が反対し、警察も乗り出す騒ぎとなった。この日、住民側の苦痛が同事務所にも届いた。この日を引金としたり、やっつけ行政側も干潟の美化運動に協力するようになった。

同事務所では、まきぎや、干八日、騒音のこともあった。干八日、騒音のこともあった。干八日、騒音のこともあった。

1981. 4. 28
読者新聞

行政の重い腰動かす

愛護会の奮闘六年

習志野市がゴミ処理約束

ランナー台分のゴミを処理する。その後は、同研究会のメンバーがクリーン作戦で集めたゴミの処理、運搬を受け持つ。

干潟の美化運動は、森田さんの呼びかけで、近所の主婦たち七人と、近で東関東自動車道建設工事を担当している前田建設や竹中土木の従業員たちもクリーン車やトラックを出して協力。集めたゴミを運出してくれている。森田さんは、干潟を訪れた岩下所長らに「干潟がきれいになり、周辺が緑をおおわれれば、ゴミを捨てる人もいなくなる」と話していた。

森田さんは、護岸側にたまっている土砂を一輪車で中虫寄りに移動する干潟内の土地改良にも着手した。「ほら、こうして掘れば、こんなにきれいな昔の土が眠っている。全部これであってほしい。三年かかるとか、五年かかるとはわからないが、昔のように子供たちにも、生き物にも喜ばれるようにしたい」と、森田さん。市の強力な「援手」に、谷津干潟の美化運動は急ピッチで進めようとした。

ゴミ騒動、にピリオド



ゴミ処理問題で話し合う、市清掃事務所と保護団体のメンバー。習志野市谷津干潟で。

習志野 国有地「谷津干潟」への不法投棄

批判受け市も協力 監視態勢も強める

度でいた。しかし、最近干潟に不法投棄されるゴミ処理をめぐって、保護団体と地元住民が対立、何もしない市への批判の音が強まっていた。保護団体側は、地道な運動の成果が実ったと喜んでいる。

「谷津干潟」は、東京湾奥部で、埋め立てられずに残された数少ない自然干潟。四季を通じて数々の野鳥の楽園となっている。しかし、埋め立ての真ん中にあるため、ゴミの不法投棄が絶えず、谷津干潟調査研究会（森田三郎会長）が昨年春から、汚れのひどい谷津三丁目地区で、近くの主婦たちの応援を得て、クリーン作戦を展開してきた。これには、東関東道路の秋津工区を担当する前田建設・竹中土木共同企業体、大塚市工業部なども協力。大型クレーンも投入された。その結果、ゴミの山はすっかり消えて、子どもたちが岸際近くまで寄ってくるようになった。

しかし、今年になって再び付近住民などの不法投棄が目立つようになった。このため、同研究会は、今年になって再び付近

1981. 4. 29
朝日新聞

ふかんど

才17号

MONTHLY
初夏特別号

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市五北方二ノ三五ノ六
電話(四三)一六一六六六八
文責・編集 森田三郎

講読料年200円

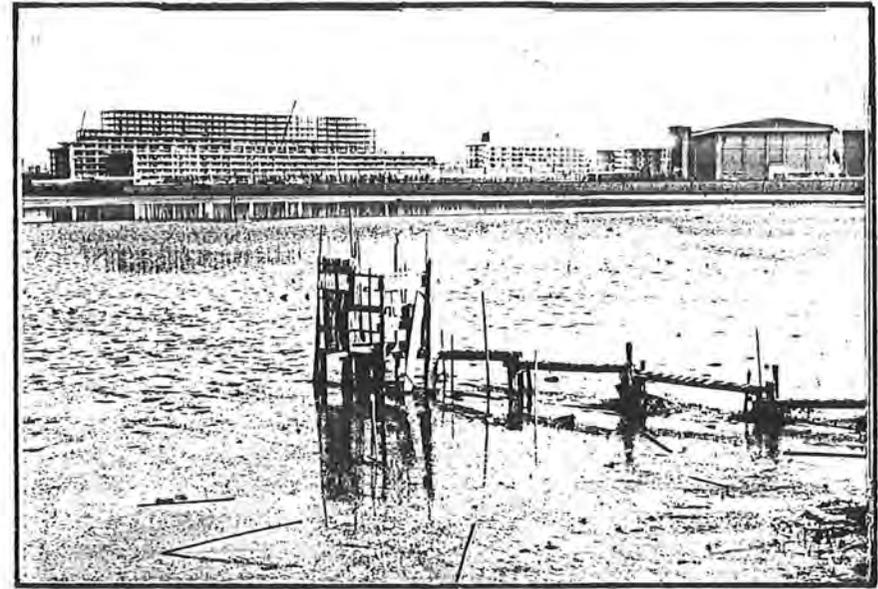
PRINTED IN

ウエダ

へふかんぞー燃ゆる新緑の春ゼミが鳴く限り干潟の見える大きな楢に登り、大声で唄い叫び、やがて来る夏を想い、胸いっぱいにして寝ついた頃

谷津干潟水上観察舎

— いよいよ完成しました・・・全国で初の試み —



設計・施工

谷津干潟愛護研究会

チーフリーダー

長塚進吉

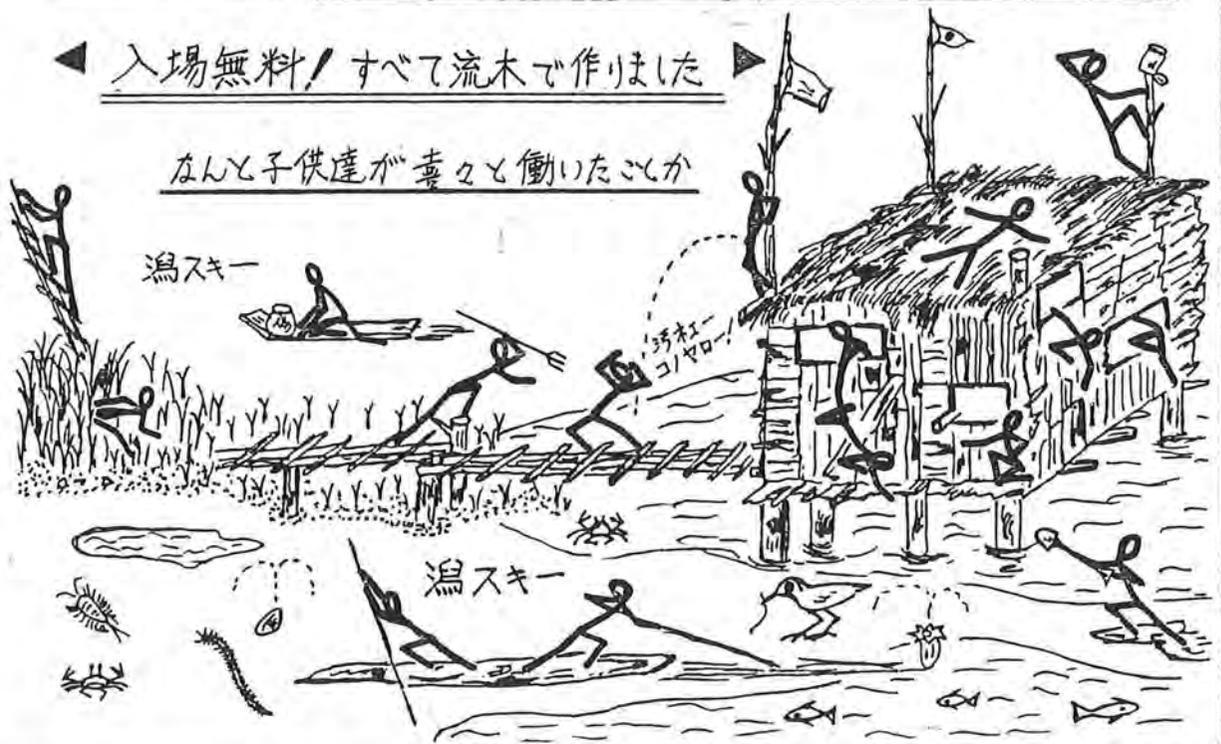
<写真提供>
高木世史

水上観察舎の思ひつき

初対面早々、いきなりクリーン作戦を遂行していた人から、「ネエ、ヨシと流木を何とカ利用してっというか、組み合わせてサア、鳥をおどろかさないで、潮が来ると観察できる、人かかくれるようなものを作りたいね、森田さん、ホラア、あのホルネオあたりの原住民が住んでいるようなマジさあ、それで決った。北風吹きすさぶ中、ト口をうけ汗かくの作業だった。案出した彼は言う、「他の人間は流木をゴミだなんて言ってるけど、とんでこないよゆえ森田さん、」と。

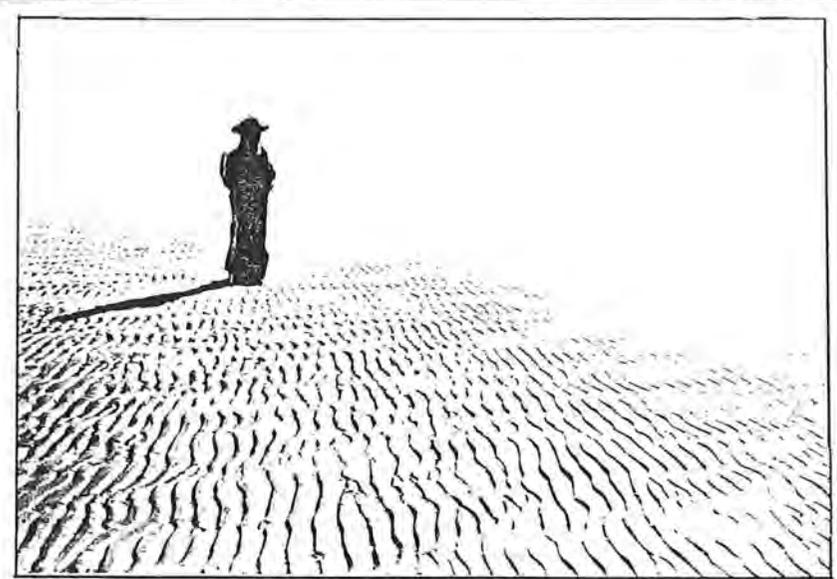
◀ 入場無料! すべて流木で作りました ▶

なんと子供達が喜んで働いたよか



潟スキー

潟スキー



ささ波の
砂は掃き
ささ波の
太き鵜目に
春の近きを
一文高生
一八八二・三十一
幕張人工海浜
ヨアササシのヨニー
をに取一ッ

毎日曜日 才3あがま屋に集合して、クリーン作戦・観サフ・サツエイ・各種作業・雑談・情報交換・お料理教習などを行っている。

ボランティア活動参加の連絡先 0474・51・7054 長塚 0473・38・668 森田

大量の土のう袋が必要になりました。運搬・処理は国・県・市・建設会社という支援体制が出来ましたが、他は殆んど有志です

●長塚氏による「御料教室」が開設されます。U字を使って、バーベキュー・鉄板焼きなどをあそぶ予定です。

「谷津干潟、を野鳥の楽園に

愛護研究会の清掃活動に
習志野市も積極協力へ

来月十日から始まる「愛護週」を前に、野鳥の生息地である習志野市の、谷津干潟をきれいにしようと、清掃に励んでいる谷津干潟愛護研究会会長、森田三郎さん(市川市本北方二の三五)は、集めたゴミを市に処理してもらうため、二十七日同市清掃事務所の岩下孝志所長や職員らと現地へ入り、ゴミ処理の話合いと現場を説明。この結果、岩下所長は「人手は多いが、いまだに何かが協力してほしい」と約束し、ゴミを詰め、トラックで運んでく

た。これまでも市の協力はあったが、明確に協力を打ち出したのは今回が初めて。森田さんは「名実ともに野鳥の楽園になる」と喜んでる。

同干潟は東京湾中央部に築かれたただ一つの「自然干潟」。いまシギ、チドリ、カモ類など渡り鳥が初夏の日差しを浴びて水面にたわわれ、愛鳥家たちの絶好の観察場になっている。

ところが、六年前までは潮満時になると、木材やゴミが流れ着いたり、心ない釣り人が捨てたガラスビンやポリ容器類が散らばり、よごれ放題。子供たちが、カニの卵に押しかけ、割れたビンの破片でケガをすることがよくあり危険。このため、森田さんが仕事の合間を利用して毎日、干潟の清掃を仕掛けてきた。

しかし、五十万平方メートルもある広大な干潟。たった一人の力ではかたらない。その間、市清掃課に相談しても「園の清掃」と言を左右にして本格的な協力は得られなかったが、昨年ごろから一人でせよと清掃を続ける森田さんの愛護団体の岩下所長と岩下所長や職員らと現場へ入り、ゴミ処理の話合いと現場を説明。この結果、岩下所長は「人手は多いが、いまだに何かが協力してほしい」と約束し、

れるようになったという。

今回の市の協力を森田さんの孤軍奮闘といってもいい努力に報いようという好意によるものらしく、森田さんは「これによって干潟の美化がぐんと促進されるでしょう」と大変な喜びようだ。



谷津干潟
「習志野」みんがの力で、野鳥の楽園・を守ろうと、習志野市スコープを片手にクリーン作戦を展開した。

ゴミを捨てないで！ 主婦らがクリーン作戦

付近の主婦ら約十人がスコープやゴミ袋を持って、二時間間にかけて、干潟に汗を流した。

森田さん(市川市本北方二の三五)は「ゴミの不法投棄に目を覚まして、今後は清掃活動を通じて、将来は干潟をきれいにしたい」と、張り切っている。

「習志野」みんがの力で、野鳥の楽園・を守ろうと、習志野市スコープを片手にクリーン作戦を展開した。

谷津干潟は東京湾中央部の前面にあい、総面積は約五〇〇。日本では絶滅寸前であるダイシギやシギやハリモモチ、ウシクシギのほか、コアジサシ、シロチドリ、カモなど三十五種約二万羽が四季を通じて生息、野鳥楽園に訪れる人が多い。

ところが最近、この干潟に建築廃材や商品ゴミなどのゴミを不法投棄する不心得者が続出し、汚れた目立ってひどくなっている。とくに、カニや貝などがとれて、ゴミたちの絶好の遊び場になっている。砂浜のある水たまりには、割れた空きビンやゴミの付いた鉄スズなどが捨てられて危険な状態。

この日のクリーン作戦は、市民団体の「干潟愛護研究会」(森田三郎代表、会員二十五人)の呼びかけで行われた。同会員のほか、谷津干潟のゴミ清掃に汗を流す主婦たち

主婦は黙々と美化。そして大の男が自然保護論争で仲間ケンカ。

「いのちきりてます」

松下竜一著

三一書房 一五〇〇円

「コアジサシの親子」

国松俊英 著

岩崎書店 一〇〇〇円

「ウウーン」

谷津干潟十字軍

ネエー

そんなコトを言い出したら人かいた。「んぐんぐん、何だのソノ、十字軍、ちやうどは?」

「いや、たけな、フマリさん、谷津干潟が聖地、イエールサレムさあ」。

バードウォッチャー面したバードウォッチャー、ナチュラリスト面したナチュラリスト、〇会員面した人間たち、うんざりしている私には、こんな言葉でどホッとするのです。

リーダーが「オレはリーダーだ」と思い始めた、そのリーダーは下り坂なのだ。―自省―

谷津干潟、これが30年前の楽園

クリーン寄金、付き 希望者どうぞ

水車回り、魚はね、子供たちが遊びに余念ない30年前を描いたイラストの一部



愛護会の森田さんがイラスト集

東京湾に残された数少ない野鳥の楽園・谷津干潟(がた)。(習志野市谷津)のクリーン作戦を進めている市民団体「谷津干潟愛護研究会」の代表森田三郎さんが、このほかに、三十年前の干潟の光景とそれを取り巻く子供たちの生き生きとした姿を描いたイラストマップを製作した。

「干潟の思い出ありし日の谷津干潟と赤銅色の子供たち」と題されたマップは、新聞紙大で黒い一色刷り。森田さんが小学生のころ、堤防で駆け回った干潟で、ハセやワタリガニのつかみ取りが、これ以上自然を破壊してはな

という環境の運動の「原泉」になっていると思います。千枚印刷したので、希望者を買ってください。その寄金をクリーン作戦に必要なゴミ袋などの資材調達に充てたい」と話している。

希望者は、五百円(マップ三百円、郵送料百七十円、カンパ三十円)を同封して、干潟市川市本北方の三五の六、森田三郎へ。

4月14日
ヨシウリ

BOOK

「夜と霧」

V・E・ブランド

―中々ぞ(深き淵より)の音を。

T・V・A

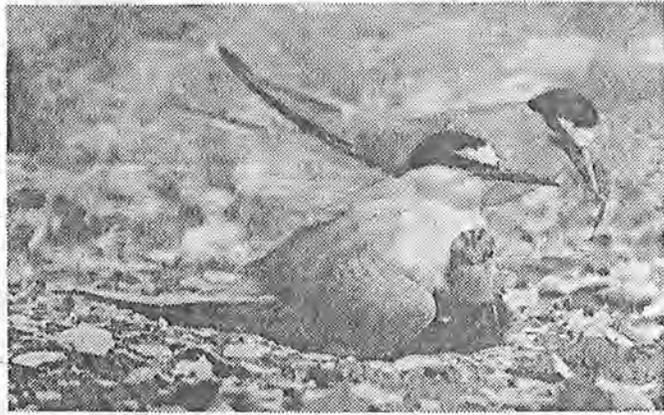
リリエンスール

―中央政府と地域住民の向って奮闘し、計画を遂行した。

●5月2日、谷津遊園に、西グラウンドの西側からゴミが出ているので、土止めの柵を整備するように申し入れをして来ました。

コアシサシよどこへ

習志野市の谷津干潟周辺の東京湾京葉地区埋め立て地一帯で、夏の盛り、多い年には千個以上も見つかったコアシサシの巣が、今年には全く見つからなかった。住宅や工場が一段と進出したほか、心ない人たちのいたすらのためだが、チドリ、コチドリの巣も消滅寸前。数年先には同じ運命をたどるとみられる。埋め立て地一帯の野鳥の営巣、産卵状況を調査している谷津干潟野鳥研究会代表、森田三郎さん（市川市木北方二の三五の六）は、「東京湾に接する鳥の安住の地はないのか。早く、人間の手で繁殖地をつくってやらなくと、美しい鳥たちの姿を首都圏の空で見ることができなくなる」と訴えている。



姿を消したコアシサシ。おなかにヒナを抱いている



コアシサシなどの巣の調査をする森田三郎さん

今年ついに姿消す

埋め立てで干潟奪われ

チドリの巣も消滅寸前

習志野

調査を始めたのは五十年四月。船橋方面から飛来するコチドリ（同、の巣が四十七カ所、卵が百三十一個）、シロチドリ（同、の巣が八十五カ所、卵が二百四十七個）、コチドリ（同、の巣が十六カ所、卵が六十二個）の三種の渡り鳥。東京都江戸川区葛西から千葉市幕張までの約二十キロ、計千五百羽の東京湾埋め立て地を渡り、浦安地区（江戸川）で、三年間に八〇〇羽も激減した。区、浦安地区（船橋、習志野、市川市）が四カ所、卵が三つずつの間に姿を消したのにシロチドリを受け、「保護できるものはして保護してもらわなければ」と、まず野鳥の四ブロックに分け、この鳥の実態をつかむため、この調査を始めた。

調査の対象は、国際渡り鳥保護条約で保護鳥に指定されているコアシサシ（カモメ科、ニエー）から、ヒナがかえって飛び立つ八よと折り返りながら、森田さんは今年も調査を続けていく。今年も巣をつくっていきたく、という。

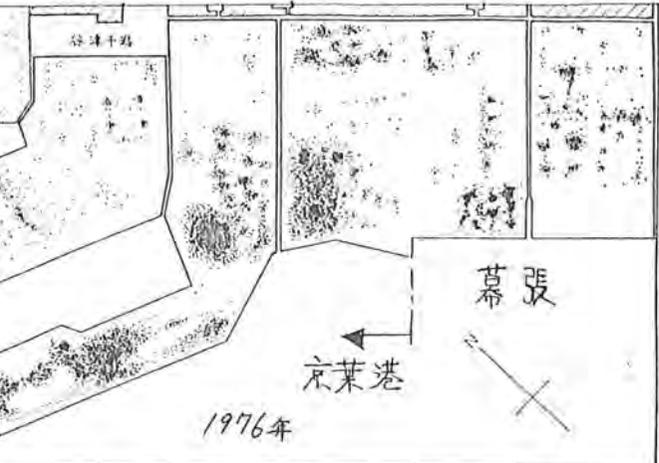
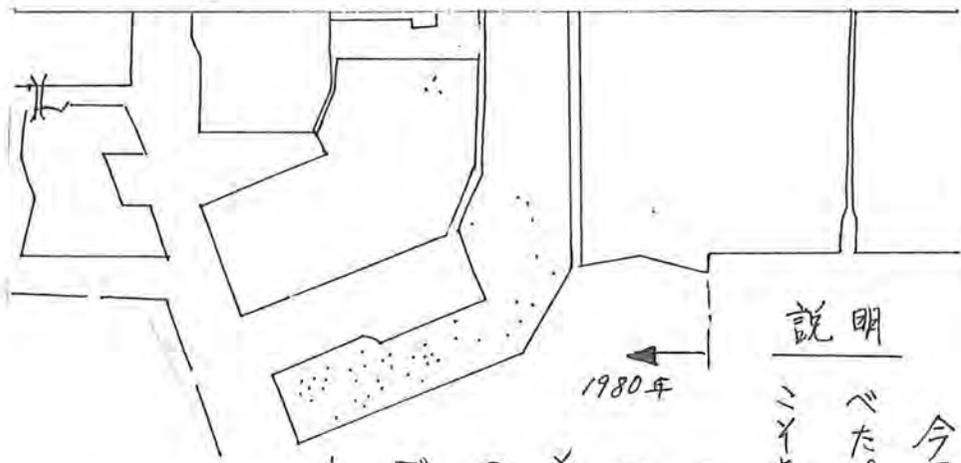


図2 京葉港・幕張地区におけるシロチドリ・コチドリ・コアシサシの営巣箇所（1点が1巣を示す）



説明
今回は、京葉港地区を比べた。他の地区も、程度の差こそあれ、同じ運命をたどっていった。又、たどりつた。仕事の都合、一人で単独で毎年するのは殆んど不可能。一人で無事でも出来たり、これは幸運だ。

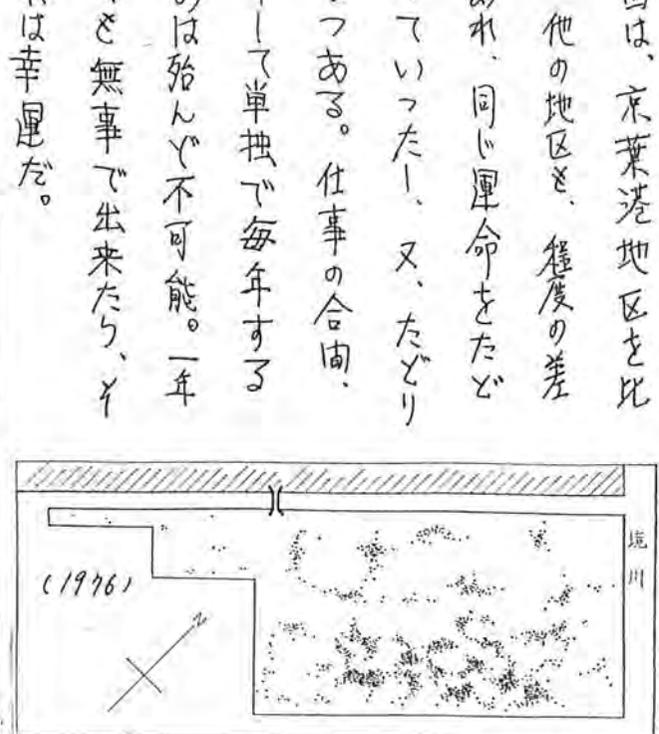
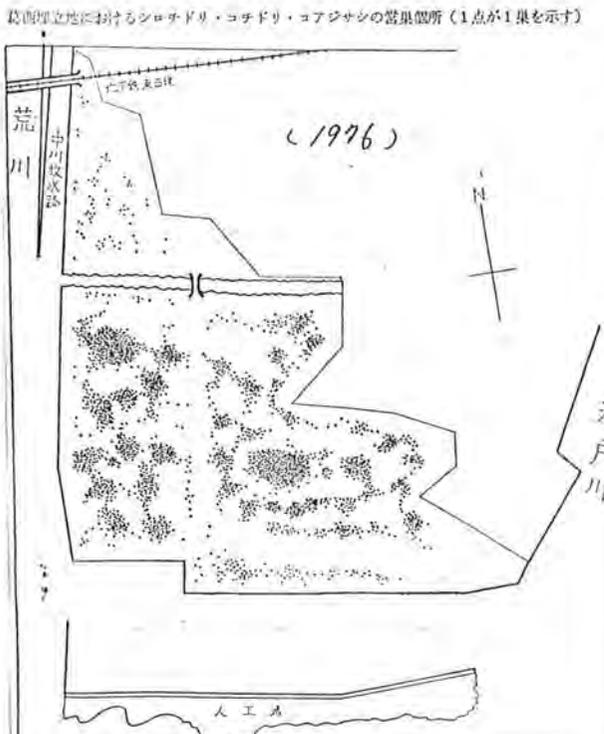


図3 浦安地区におけるシロチドリ・コチドリ・コアシサシの営巣箇所（1点が1巣を示す）



図1 調査地位位置図：黒くぬった部分が調査したところ。

葛西は、京葉港よりとるかに急激に減り、やがて消滅した。



葛西埋立地におけるシロチドリ・コチドリ・コアシサシの営巣箇所（1点が1巣を示す）

ふかんど...潮だまりの中を、一人か気遣いの如く走る。おどろいた魚は水ぎわへ、と一人かやれをとり、

ふかんど

第19号

1981.5.25
MONTHLY

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五番六
電話 區室一六一六六六八
支責 森田三郎

講読料年2000

PRINTED IN
ウエタ

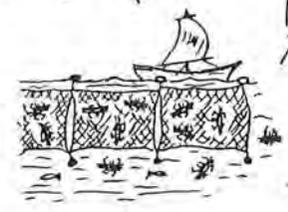
コアジサシ・シロドリ・コサドリの繁殖調査をしています。17年目。

クリーン作戦は前進する ＝さらに2年に向けて＝



燃えてこそ
人は来るものストーブに
なれば石が燃えずして
効能書きにて人は来たらし

主婦A 「森田さん、私はねえ、干潟や鳥に、別にどおって関心が無いのよお。ごめんねえ。ただねえ、森田さんひとりっきりでお掃除やってたでしよう、あれでねえ、わたしりかわりそうになっちゃったのよお、うん」



我にならん
負いり来たリふかんど
痛みと重荷を想いなば
比我の境も無かすべし
とか。



主婦B 「自然保護の為え? そういうことは考えたことならんかないわあ。必要ないんじやないのあ? よくわかんない。森田さんはなんなの、どうしてやるのあ? あたり、森田さんが何考えてんだかよくわかんないんだけどさあ、森田さんがやってるからやってるのよ。時々用があつてダメになつちやうけどそれでいいでしょあ?」

主婦C 「ウチの子供がカニが好きでえ、よく見に来たりとりに来たりするでしよう。それでねえ、なんがお礼というか、お返ししなればと思つてえ... 喜んでゆえ」
主婦D 「森田さんのさあ、干潟に対する情熱よあ。それよあ、それだけよあ、ほかになんかなんにもないわよあ」
主婦E 「わたし達と同じ所に住んでる人達が捨てたモノでしよう、それを、他の所に住んでる人がそうして居るのにさあ、そばを通る時に見て知つていてねえ、"ご苦労さまあ"と言つただけねえ、何もしないで通りすぎるよなんがあ、一市民としてで

きながつたわあ... それでわたし達相談してさあ。ほかの人をみんなそうよあ、干潟とカ鳥を守ろうと思つてえその為になつた人なんていないと思つてよあ...
「ふううん、...」
「...とまあ、私と共にクリーン作戦に参加してくれて居る、近くの主婦の"ソノことば"なのです。こういうソフトムードとは全く対照的に、先頭に立つ私は、
軽ーめん
干潟の重荷をイのたびに
一フーフー又一フ
フまずき軟かひの我ちれ
干潟の呼び声ふかんどに
尽くしてはかさんていんこら
なんつ、コチくになつて気負ひ立ち、肩ヒジを張つていたんだなあ、今思わすにはいりかません。しかし、一見似つかわしくな
り、この二者が、次の言葉である、
勇将の下に弱卒なり
というものを成就せしめたのであった。(弱卒だなんて奥さんゴメンナサイ)
明日へ向つて、クリーン作戦は断え向なく前進している。私達は、今"というものをとらえ確かなものにする。
この秋は 雨か嵐か知らぬほど
今日のつとめの 田草とるなり
「干潟の価値は?」と問う人、その人、「干潟に対して何をきて答え、いかなる価値を有するか体せよ」

クリーン作戦モテル地区に、ベンチ(三つ)とクス箱を寄贈してくれました方があります。



＝ゴミひろいだけでなく、干潟の土地改良も実施しています＝

保護・監視に務めます。

更に京成に

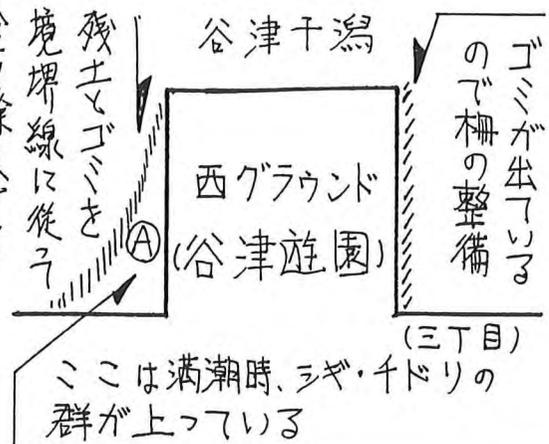
申し入れました

― 残土・産業廃棄物の撤去 ―

5月19日、谷津遊園の現地に於いて説明し、申し入れました。

京成からは、本社広報課々長・中垣行博氏、谷津遊園管理課々長補佐・藤崎弘氏、そして森田。

ゴミが出てくるので柵の整備



①については、砂浜のよう所で良いという意見も会員から出ています。だが、残土とゴミでは仕方ない。



進む京成社有地の埋め立て工事

4月19日(日) 五十嵐・森田は工事現場に立ち入りました。この水からも続けます。希望者は当会へ。

埋め立てる社有地の全景

何も知らないカニは潮溜まりで。

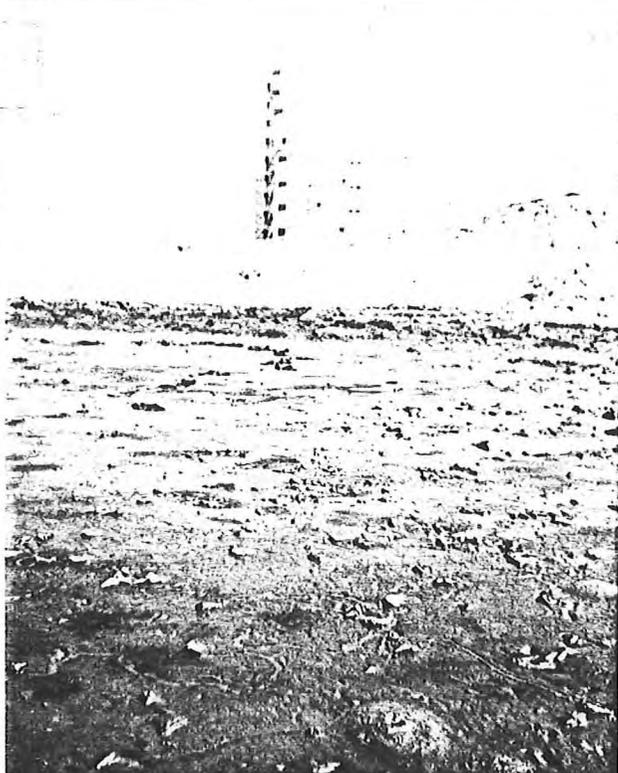
このウミニナの上にも写真の建物が。



この本をすすめる

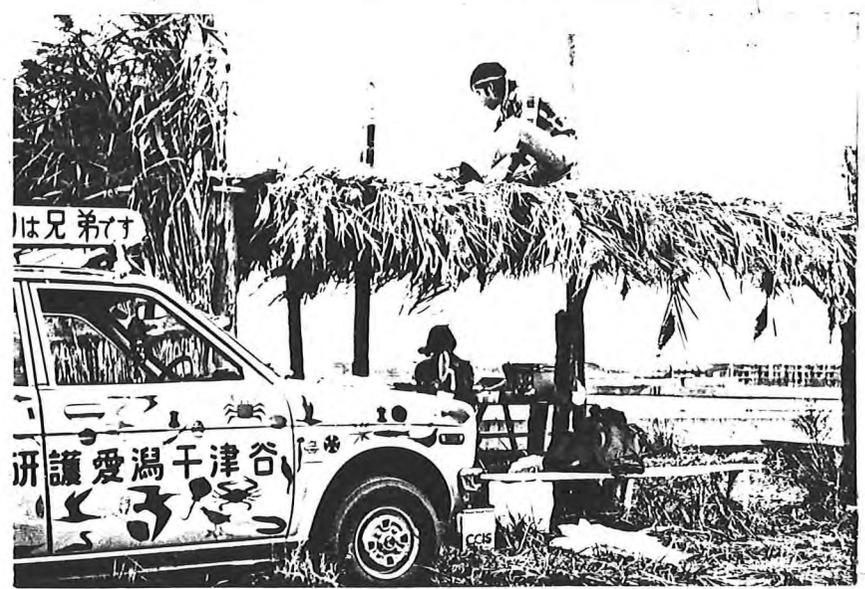
「富の畜積」
安田善次郎

「ハイアウサの唄」
「エヴァンジェリン」
ロングフェロー



▼あずま屋で・・・▲

この日は、県立・船高生と習志野一中の生徒が参加しました



この水からの暑い時、あずま屋の中はすずしく天国です。

観察・調査・さつ影・食事・作業・その他何でも自由。



・小かんど・・・初夏の緑に燃ゆる広い干潟の見える大きな複に、春セミが盛んに鳴いた頃・・・

ふかんど

第20号

MONTHLY
6月25日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五〇六
電話 0476-1-1666八
文責・森田三郎

講談料年2000

PRINTED IN

ウエダ

草ムラの中でバーベキュー

5/23



風にイよぐアシの音・空にはヒバリとセッカ、イしてシギとチドリの声を聞きながら食べました。U字溝を使い、長塚さんの堤案とイの用意でした。

干潟のイばの人か、ベンチス、ガス
トボックスも、寄附してくまました。



木製のとっても立派な、高価なもの。モデル地区の、手づくりの砂浜に置きました。以前の持ち主は、東京で不動産業を営む飯島社長さんです。私産のクリーン作戦を知る親切な市民の方が、特別の労をとってくまました。

説明 真に、谷津干潟の為を思う我々は、今後とも具体的現
説 実的に対処しイの實踐を以て運動の根柢とします。

谷津干潟の環境保全・特に潮の流通確保についての要望書

1. 若松団地側の干潟の水路を改修する。溝橋ごとに独立した濇をつくり、水路入口より直線とする。(図参照)
2. 暗渠の中の浚渫をする。
3. 谷津干潟部分に濇を復元する。
4. 暗渠入口の土のうもと取り除く。

以上四氏が当面の緊急の対策と考えられます。右の工事實施時期は、六月中が適切と考えますので速かに実施していただくようお願いいたします。なお今後干潟の状態に応じて、必要な方策を講じていたいただきたく、随時当方と協議を行うようあわせて要望いたします。

一九八一年五月二十七日

日本道路公団
日本鉄道建設公団

御中

千葉の干潟を守る会
千葉県野鳥の会
谷津干潟愛護研究会

森繁久弥さんから、野鳥観察舎建設基金に三万円頂きました。

自然保護団体は、野鳥観察舎を守るために、企業等に説得作業を行なっています。皆様の御支援を願わがにはりません。

